

ISS Application for Certification



Application to become a member of
International Safe Schools Network



Chichibu Daini Junior High School



目 次

第1章 秩父第二中学校の概要	1
1 校名、校章、教育目標	1
2 教職員数と在籍生徒数	1
3 学校を取り巻く環境	2
第2章 インターナショナルセーフスクールへの取組	3
1 取組の背景	3
2 この3年間の取組状況(あしあと)	3
3 ISSの推進と秩父市に学ぶ私たち	6
第3章 学校における外傷の状況(安全の状況)	7
1 校内のケガ(発生状況、発生場所、時間帯、症状)	7
2 校外のケガ	18
3 心のケガ(いじめや友人関係のトラブルでの欠席や悩み)	20
第4章 8つの指標に基づいた取組	25
指標1 教師、生徒、事務職員、保護者等の協働を基盤とした、安全向上 に 取り組む運営体制が整備されている。	25
指標2 組の方針(政策)は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や 教育委員会等の方向性と一致している(明文化されている)	27
指標3 長期かつ継続的に運営されるプログラムによって、両性・すべての 年齢(学年)、環境、状況がカバーされている	32
指標4 ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象とした プログラムがある	42
指標5 根拠(エビデンス)に基づいた取組みを行っている	47
指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある	62
指標7 学校の安全に関する方針、プログラム及びそのプロセスが変化 したことによる効果を評価する方法がある	68
指標8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している	73
第5章 取組みの成果と今後の課題	74
第6章 安全な学校づくりに向けた今後の取組と 展望	75

第1章 秩父第二中学校の概要

1 校名、校章、教育目標

本校は1947年（昭和22年）に秩父町立秩父第二中学校として設立され、来年（2016年）には創立70周年目を迎えます。これまでのところ、約17,000人を超える卒業生を社会に送り出しています。

学校教育目標

心豊かで自立して生きる生徒

具 体 目 標

かしこく 学びを大切にする生徒
つよく 意欲を大切にする生徒
さわやかに 自他を大切にする生徒



ビジョン

さわやかなあいさつ、一人一人を大切に絆を深め

誰もが安心して学べる学校

2 教職員数と在籍生徒数

教職員数（2015年）

職 名	人数
校長	1
教頭	1
主幹教諭	1
教諭	18
養護教諭	1
事務	2
校務員	2
さわやか相談員	1
給食配膳員	1
特別支援教育補助員	1
司書教諭補助員	1
スクールカウンセラー	1
A L T	2
初任者研修補助員	1

在籍生徒数（2015年）

生徒数		1年	2年	3年	特支	合計
	男	57	44	53	4	158
	女	64	44	34	0	142
	計	121	88	87	4	300
学級数		4	3	3	1	11

*「特支」とは特別支援学級であり、教育上特別に支援が必要な生徒のための学級です。

*さわやか相談員

生徒や保護者の心の問題について
相談に応じる人

*A L T（外国語指導助手）

英語の授業において日本人教師を
補助する外国人

校 章



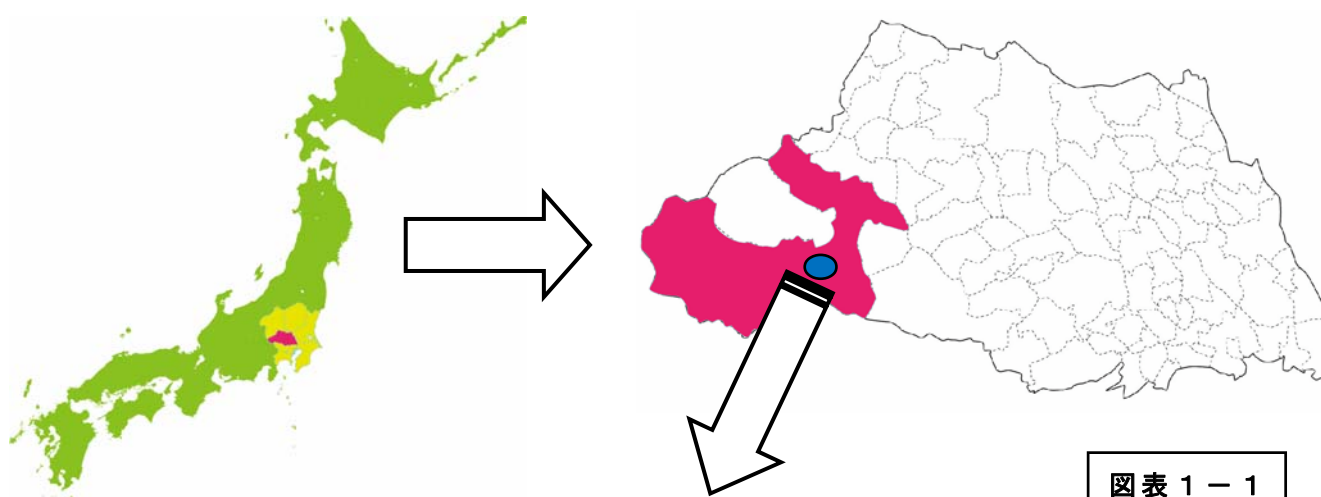
* 4月1日から新学年が始まり、3月31日が最終日となります。

3 学校を取り巻く環境

本校は市内の中心校であります。生徒の流入が少なく、南小学校、花の木小学校からの持ち上がりの生徒がほとんどです。学区内には、国道140号線と299号線が、鉄道では西武鉄道、秩父鉄道が通っており、西武秩父駅、御花畑駅など要所となる駅があります。さらに秩父市役所、市民会館、公民館など重要な施設が隣接しています。そのため、自動車、自転車、歩行者など交通量が多くなっています。また、学校周辺の住宅化が進んだことにより、生徒の通学路の中には道幅が狭くなっている道や街頭のない暗い道もあり、登下校時の交通安全に対する不安がある地域でもあります。

【 日本地図（埼玉県）】

【 埼玉県地図（秩父市）】



図表 1 - 1



第2章 インターナショナルセーフスクールへの取組

1 取組の背景

本校は1947年の開校以来、生徒数も増加し、校舎や校庭が拡大され、施設・設備の整備等が進んできました。一方、秩父市の中心地として学校周辺の住宅化も進み、狭く見通しの悪い道路が多くなり、交通の増加に伴い、生徒の登下校時における危険性が高まっています。

2013年、秩父市のセーフコミュニティの宣言を受け、本校学区域3校がインターナショナルセーフスクールの認証を目指します。この認証に向けた取組を契機として、生徒の危険回避能力の育成や地域・保護者と連携した生徒の見守り体制を充実させたいと考えます。

2 この3年間の取組状況（あしあと）

図表2-1

	諸機関との連携	生徒の取組概要
2013年		
5月	・インターナショナルセーフスクールに係る研究委嘱	
7月	・認証校 豊島区立朋有小学校視察 ・インターナショナルセーフスクール取組宣言(JISC) ・インターナショナルセーフスクールに係る研修会参加(市危機管理課)	
8月	・PTA本部役員会・常任委員会への説明組織の立ち上げ ・セーフコミュニティ子どもの安全対策委員会参加(9月、10月、12月、1月)	
10月	・認証校 厚木市立清水小学校視察	いじめ防止 『いじめ防止プログラム』取組への参加
12月		安心・安全 『命の大切さ』学習(毎年)
2014年		学校保健委員会
3月		〈生徒会長〉〈保健委員会〉 ・会長セーフスクールに向けての所信表明 ・学校におけるケガの状況報告
4月	・ISSだより発行開始(毎月発行) ・セーフコミュニティ子どもの安全対策委員会参加(4月、5月、9月)	生徒ISS委員会の立ち上げ スローガン、ロゴの募集・決定 公開授業(授業参観) ライフスキル学習
5月	・熱中症対策 冷水機3台設置(贈:PTA教育振興会) ・セーフコミュニティ事前審査 ・ISS審査員学校訪問	安心・安全 『熱中症対策』学習 生徒会本部 いじめ撲滅宣言可決 生徒ISS委員会 ISS啓発ポスターの募集・決定
6月		保健委員会 ワークショップ① 『地震発生・その時どうする?』 生徒ISS委員会 ・いじめ撲滅標語の募集・決定 ・ケガ予防標語の募集・決定 ・交通安全標語の募集・決定

7月	・PTA人権教育研修会 ・PTA連携子ども見守りパトロール（あめ薬師縁日、川瀬祭り） ・二中校区サポートチーム会議 ・民生委員、児童委員懇談会 ・PTA学区内各町会 子ども見守りパトロール（11町会） ・ISS研修会東日本セッション参加	安心・安全 『救命講習会』参加 ボランティア活動 公園橋、秩父神社清掃 保健委員会 ・家庭用防災グッズCheckリストの配布 ・家庭用緊急避難カードの配布 交通安全 スクエアドストレート技法による交通安全教室参加
8月	・ISS合同研修開催(白石先生、今井先生来校)	防災訓練（校内） 緊急地震速報を利用した避難訓練 防災訓練（校外） 秩父市総合防災訓練参加
9月	・ISS合同研修会(西田先生来校) ・セーフコミュニティ学区内地域安全点検	公開授業 ライフスキル授業参加 体育委員会 楽しく安全な運動会にするための発表
10月	・青少年健全育成市民会議あいさつ運動 ・認証着手校 厚木市立睦合東中学校視察	
11月	・認証着手校 北本市立宮内中学校視察 ・秩父警察署、少年補導員とのあいさつ運動	保健委員会 ワークショップ② 『家での避難訓練のシミュレーション』 生徒ISS委員会 さよなら運動 生徒ISS委員会 ワークショップ 白石先生、今井先生来校 環境委員会 ストーブの安全な使用発表 図書委員会 防災に関わる本のコーナー設置 生徒ISS委員会 人権標語の作成・掲示 生徒ISS委員会
12月	・人権週間 いじめ防止強化週間	・人権メッセージ作成・掲示
2015年	・PTA、生徒ISS委員、職員の連携による登校安全指導開始	・登校安全指導への参加（1月、2月、3月）
1月		保健委員会 ワークショップ③ 『Let's 危険回避』
2月		
4月	・ISS推進校担当者会議（4月、9月）	公開授業（授業参観） ライフスキル学習
5月	・PTAによる校内巡回開始 ・ISS 理事学校訪問（白石先生、今井先生来校） ・まちの安全点検マップづくり参加（明治大学都市計画研究室共同）	防災訓練（校内） 地震を想定した避難訓練 生徒ISS委員会 登校安全指導への参加（毎月）
6月	・青少年健全育成委員学校訪問 ・再認証校 豊島区立朋有小学校視察	
7月	・PTA 人権教育研修会 ・PTA連携子ども見守りパトロール（あめ薬師縁日、川瀬祭り） ・二中校区いじめ非行防止ネットワーク会議 ・民生委員、児童委員懇談会 ・セーフコミュニティ子どもの安全対策委員会本審査参加 ・PTA学区内各町会	生徒ISS委員会 さよなら運動 ボランティア活動 公園橋、秩父神社清掃 生徒会本部 スマホ・ルール発表 安心・安全 （AEDの使い方） 『救命講習会』参加
8月	子ども見守りパトロール（11町会）	防災訓練（校外） 秩父市総合防災訓練 防災訓練（校内） 火災を想定した避難訓練
9月	・ISS推進校担当者会議（3校）	
10月	・ISS審査リハーサル	
11月	・ISS審査	

3 I S Sの推進と秩父市に学ぶ私たち

第二中学校として「秩父」に生まれ育ったことを誇りに思い、「ロゴ」、「合い言葉」にその思いを込めました。

また秩父市の「花・シバザクラ」「木・カエデ」「鳥・オオルリ」そして、秩父市を代表する絹織物の「銘仙（めいせん）」を掲示物の中にちりばめたり、学校敷地内の環境整備で出た廃材を使って木材を加工し、生徒と共に教室表示を作ったりしました。ぬくもりある学校づくりを大切にしてきました。認証に向けて秩父市に学ぶ一人であることを誇りに思い歩んでいます。



図表 2 - 2

I S Sの取組で生徒の意識を高めるために美術部の新井美希さんが考案しました。

このロゴには、「武甲山」「シバザクラ」「みどり」「第二中学校」が盛り込まれています。



I S Sの取組で、合い言葉を考えようと I S S委員会が中心になり考えました。秩父の言葉を大切にしたい。いわゆる「方言」を盛り込みました

生徒は「これから、みんなでがんばってやっこい！」の思いを込めたいと考えました。そして出来上がったのが

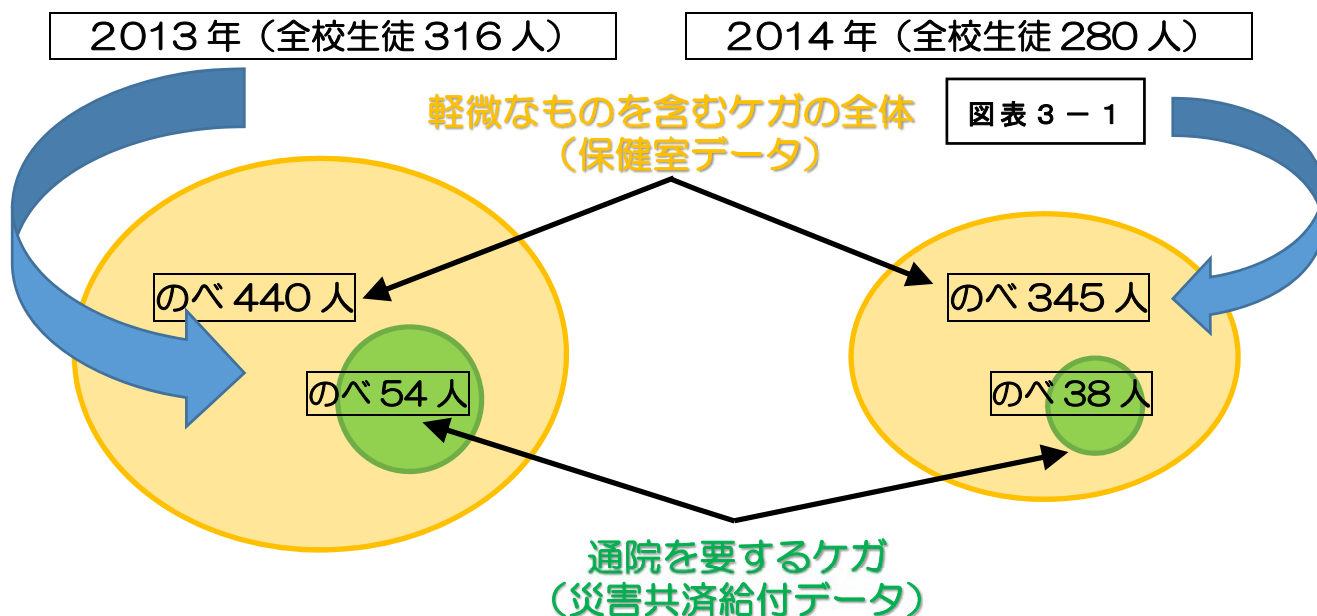
「 I S S みんなで がんばんべえ 」

合い言葉をモットーにがんばっています。

第3章 二中学校における外傷の状況（安全の状況）

1 校内のケガ（発生状況、発生場所、時間帯、症状）

校内で発生したケガは保健室データとして収集します。その中で、通院する必要がある重い症状のケガについては、災害共済給付データから情報を収集します。



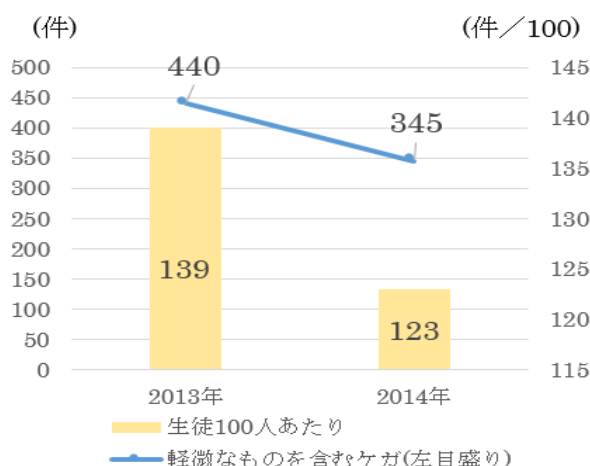
※ 災害共済給付とは、児童・生徒が学校の管理下で「ケガ」などをした時に、保護者に対して給付金を（災害共済給付）を支払う制度で、そのために学校から災害報告書を提出します。

生徒 100 人あたりの比較

ＩＳＳ導入時の２０１３年には４４０件（１００人あたり１３９人）、うち医療的ケアが必要なのは５４件でした。（ＩＳＳを導入した１年経った２０１４年には大きく減少しています。）

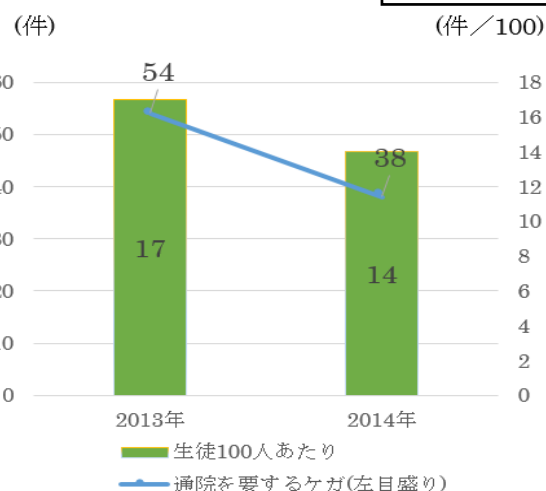
軽微なものを含むケダ 保健室データ

図表 3-2



通院を要するけが（災害給付データ）

図表 3-3



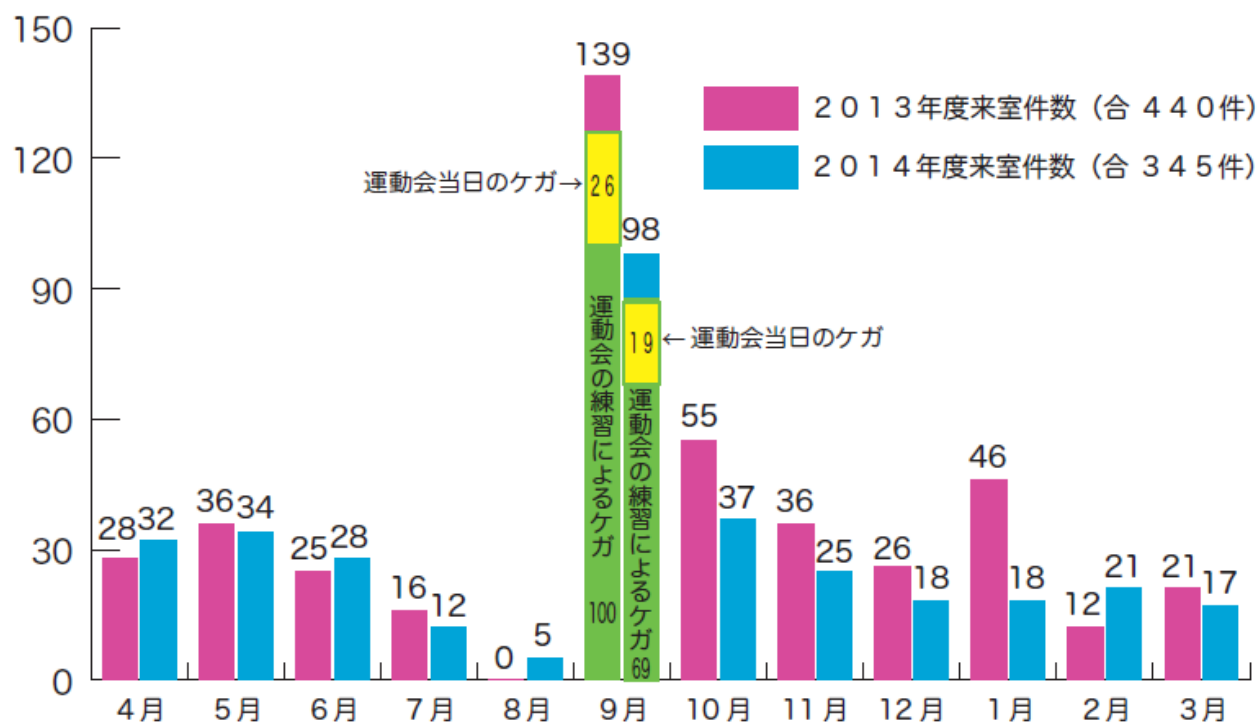
（１）保健室に来室したケガの状況（２０１３～２０１４年度）

保健室に来室した生徒のケガ状況の記録から以下のことがわかりました。

（以下データは、出典保健室来室者記録を元に作成）

保健室来室状況（外科）

図表３－４



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013年延べ人数	28	36	25	16	0	139	55	36	26	46	12	21	440
2014年延べ人数	32	34	28	12	5	98	37	25	18	18	21	17	345
2013年スポーツセンター	16	4	4	6	0	8	6	5	7	0	4	3	54
2014年スポーツセンター	2	5	5	4	3	7	3	5	1	2	2	0	39
2013年1日あたりの延べ人数	1.75	1.71	1.25	1.14	0.00	7.32	2.50	1.89	1.86	2.71	0.75	1.24	1.14
2014年1日あたりの延べ人数	2.00	1.70	1.33	0.86	1.00	4.90	1.76	1.47	1.20	1.13	1.11	0.89	1.70
2013年1日あたりのスポーツセンター	0.06	0.29	0.20	0.29	1.20	0.42	0.27	0.26	0.50	0.00	0.25	0.18	0.27
2014年1日あたりのスポーツセンター	0.13	0.25	0.24	0.29	0.60	0.35	0.14	0.29	0.07	0.13	0.11	0.00	0.13

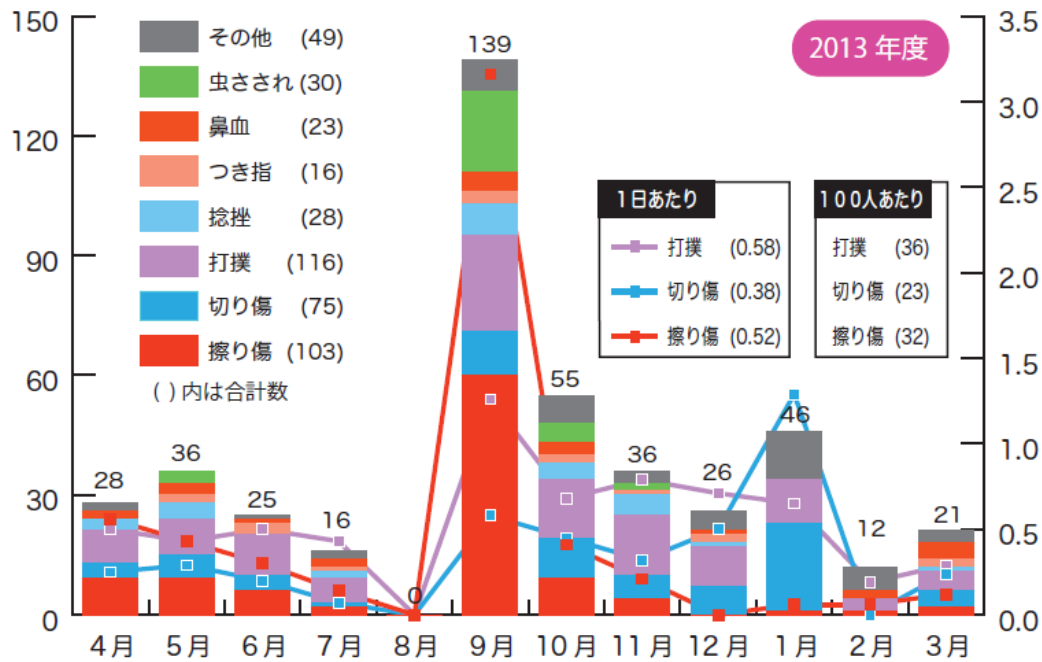
保健室来室状況（外科）の推移

9月の来室が目立って多いのは、運動会の練習により運動時間が増えたためです。

更に、5月、10月は学校総合体育大会、新人体育大会、1月の各種冬季大会とスポーツの活動が多くなるため、来室者も増えました。

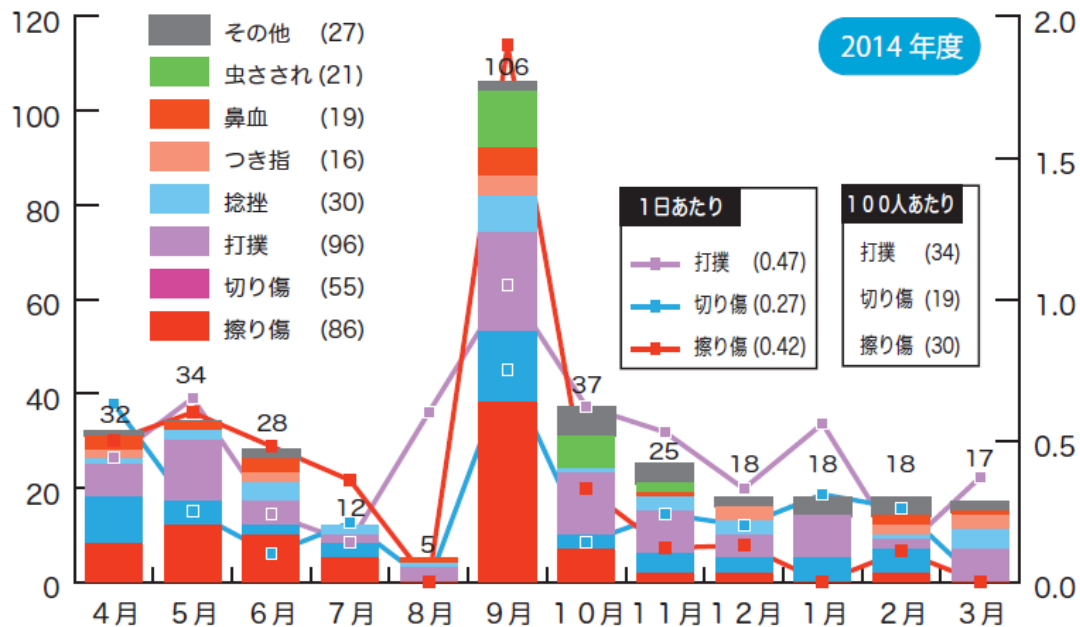
症状別保健室来室状況

図表 3-5



図表 3-6 症状別保健室来室状況(2014 年度) (出典：保健室来室者記録より)

図表 3-6



症状別来室状況 (図 3-5、図 3-6)

9月には運動会・運動会練習時に転倒による打撲、切り傷、擦り傷が多くなっています。5月、6月、10月は学校総合体育大会、新人体育大会の関係で、部活動での運動量が増えるために、ケガが増える傾向にあります。年間を通じて、転倒・不注意による打撲、切り傷、擦り傷が目立ちます。

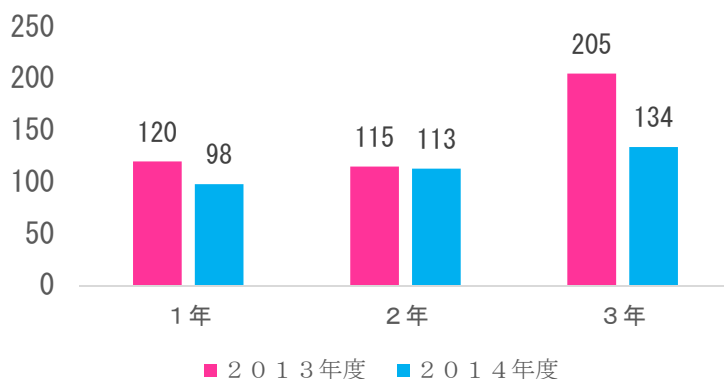
運動会では学年種目のケガが多くなっています

- 空飛ぶじゅうたん 〈シートの上に数人が乗りジャンプをしながら前進する種目〉
- みんなでジャンプ 〈長縄跳びにクラス全員が入り、回数を競う種目〉
- ムカデリレー 〈8名が足を紐で縛り、競走する種目〉

(図表 3 - 4 参照)



学年別保健室来室状況

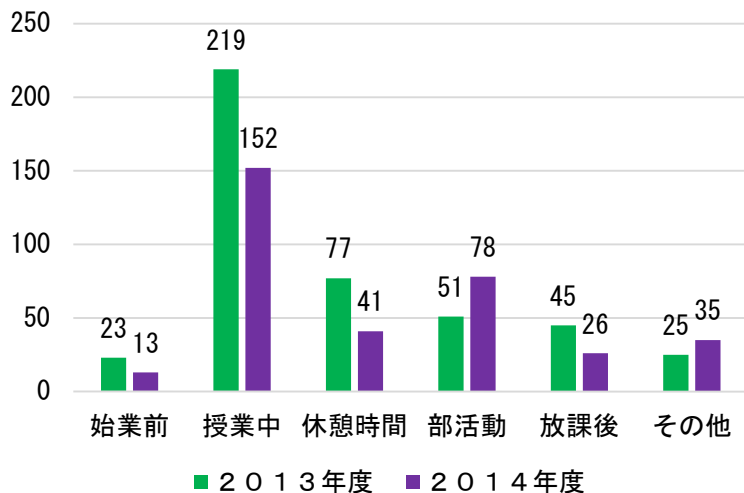


図表 3-7

学年別保健室来室状況

3年生に多いのは、9月の運動会での学年種目（むかで競走）によるものです。特に8人が1組となって足を縛っての競走でケガ（擦過傷）が突出して多いため、人数も多くなります。

時間帯別ケガの発生状況

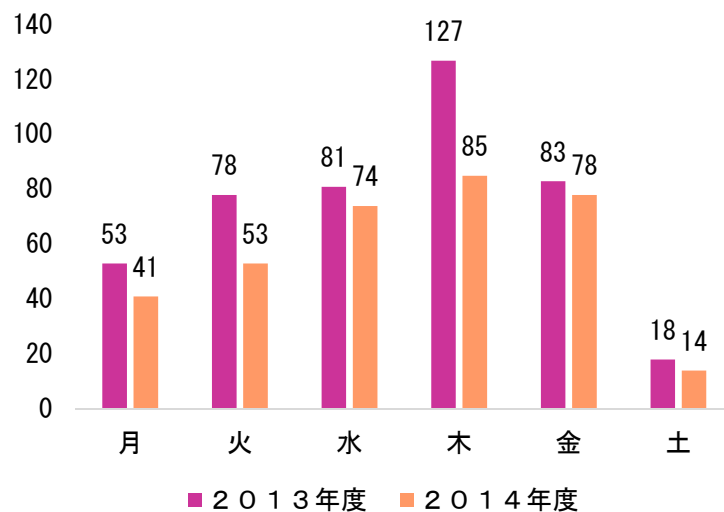


図表 3-8

時間帯別ケガの発生状況

授業中のケガは体育（運動会、運動会練習）時の転倒によるものが多くなっています。休み時間のケガは不注意による接触・転倒によるものが目立ちます。始業前のケガは家でのケガの手当てがされないまま登校し、手当てに来る生徒の件数が9割を占めています。

曜日別保健室来室状況



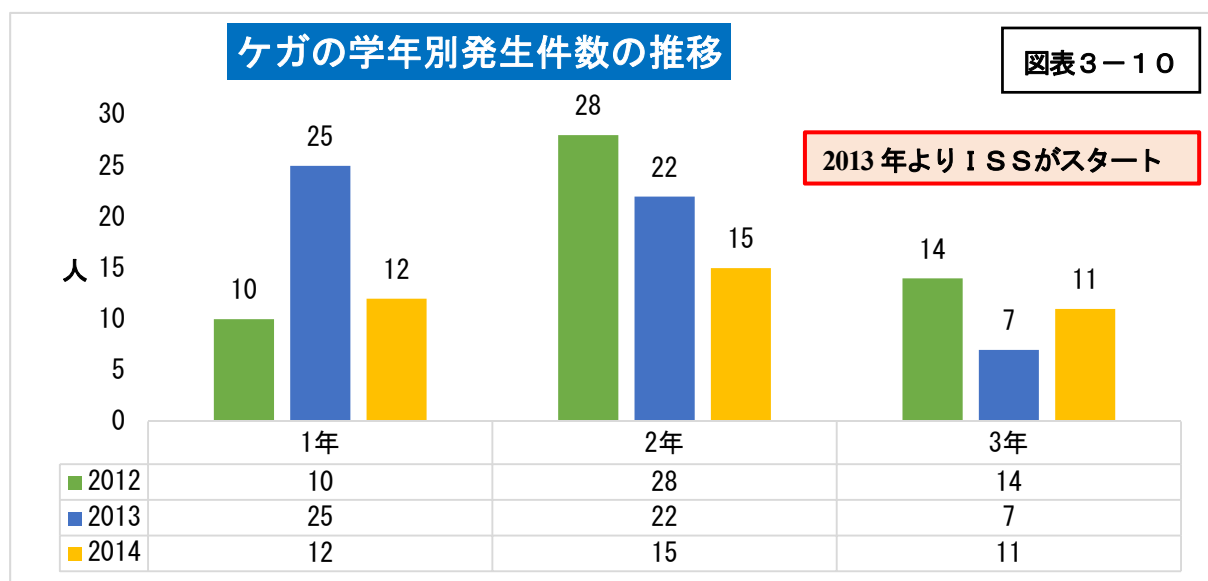
図表 3-9

曜日別保健室来室状況

木曜日に多いのは、9月の運動会の予行練習が木曜日に行われたためです。それ以外はその曜日も平均的な来室状況です。

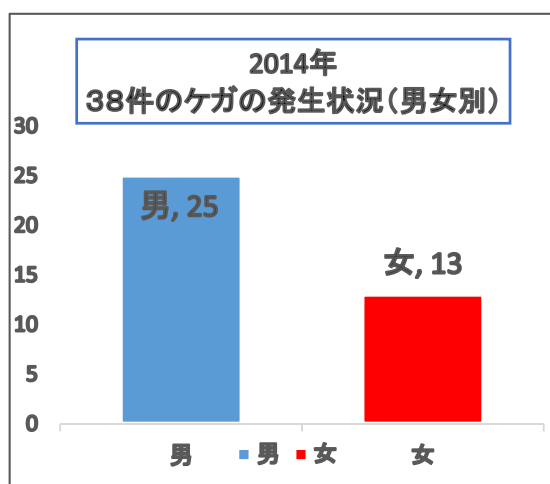
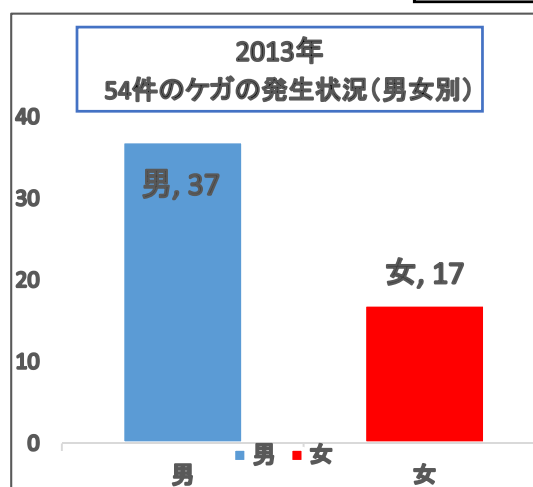
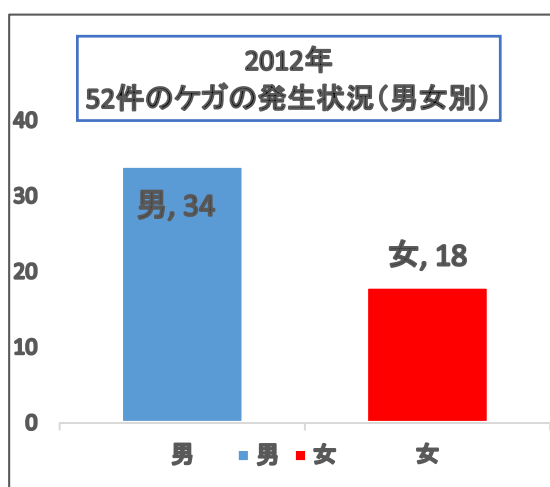
図3-7、図3-8、図3-9を見ると、①運動会②体育の時間（運動会の練習）③部活動でのケガが多くなっています。

(2) 通院を要するケガ（2012～2014年度）



全体的に見て、2年生に件数が多いのは、部活動の中心が2年生になり、活動時間が多くなるためです。3年生が比較的少ないのは、夏休み前に部活動を引退してしまうためと考えられます。

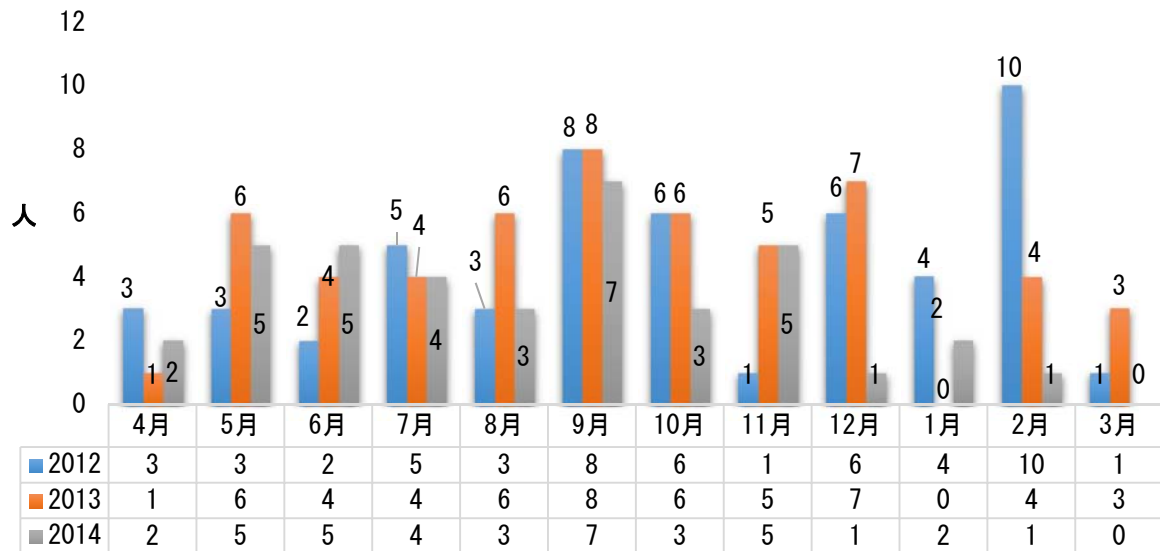
図表3-11



男女差をみると男子は女子の約2倍ケガが多い状況です。それは、部活動でサッカー・野球等のケガが多いためと考えられます。

ケガの月別発生件数の推移

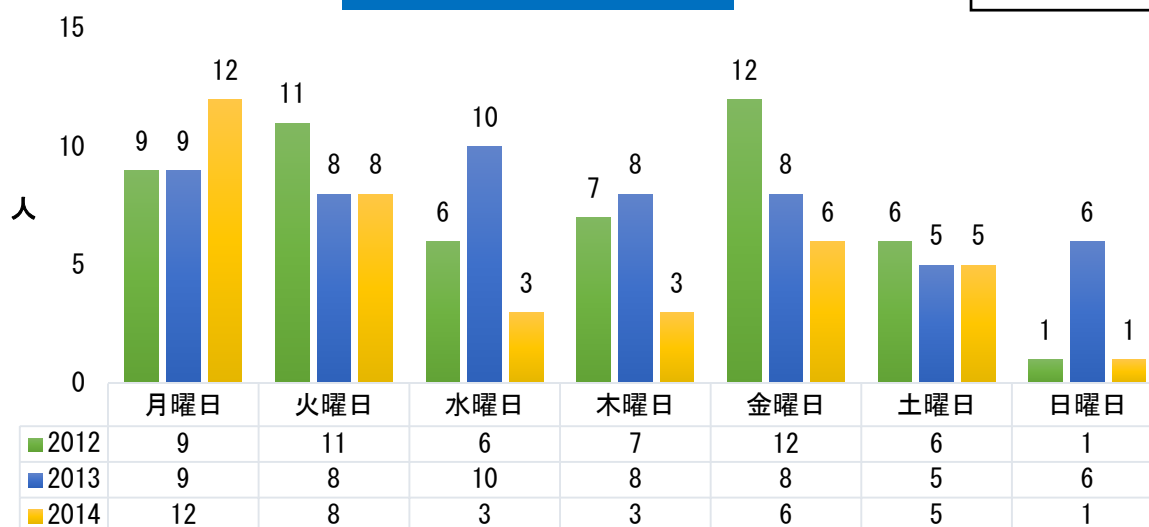
図表 3-12



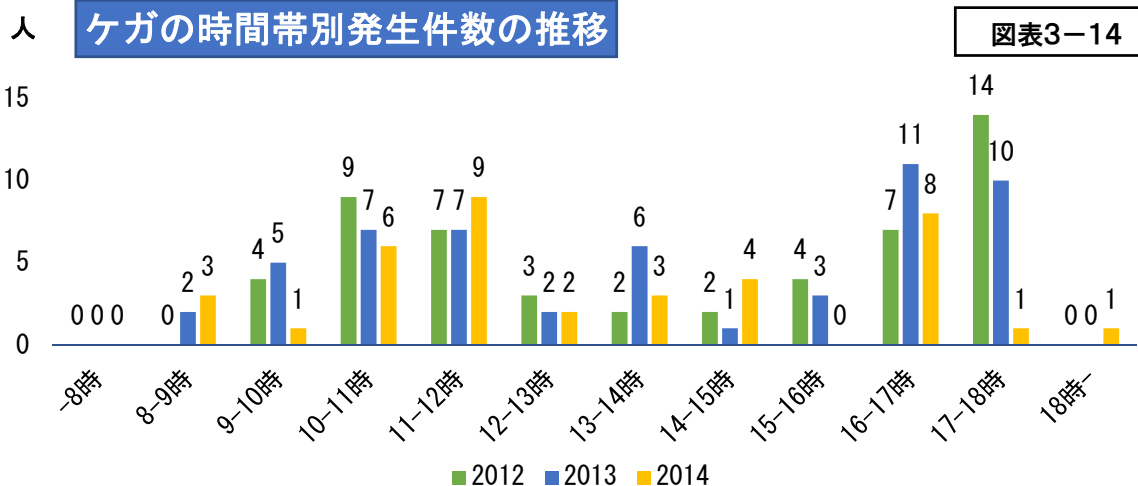
日本スポーツ振興センターの推移を見ると、年間を通じて平均的に医療にかかっていましたが、2013年になりISの取組もあり減少しています。特に2014年は取組の効果が顕著に表れています。

ケガの曜日別発生件数

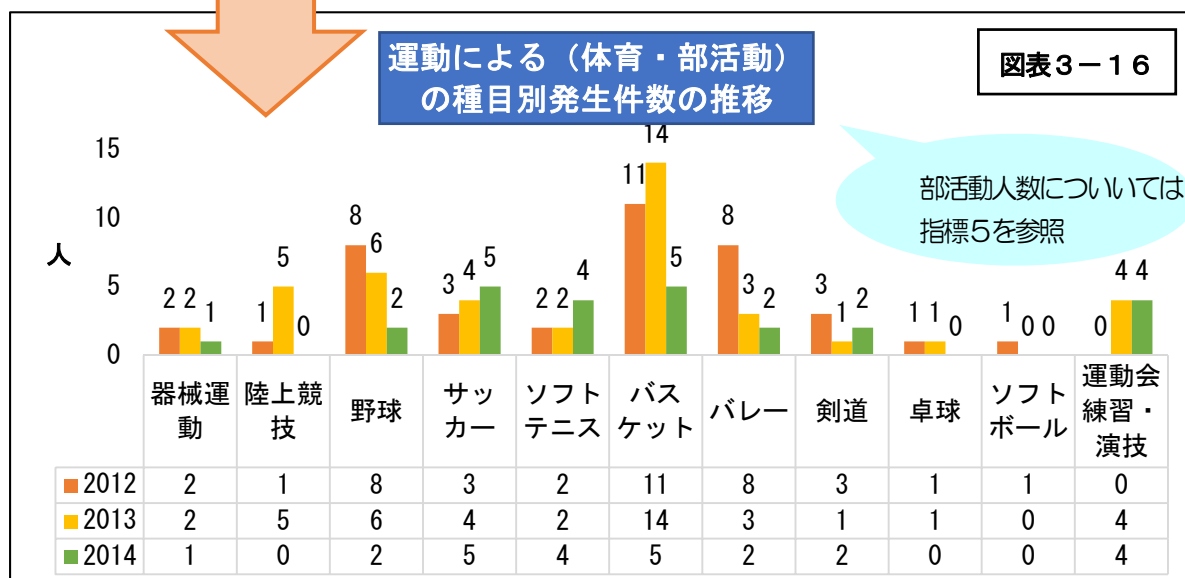
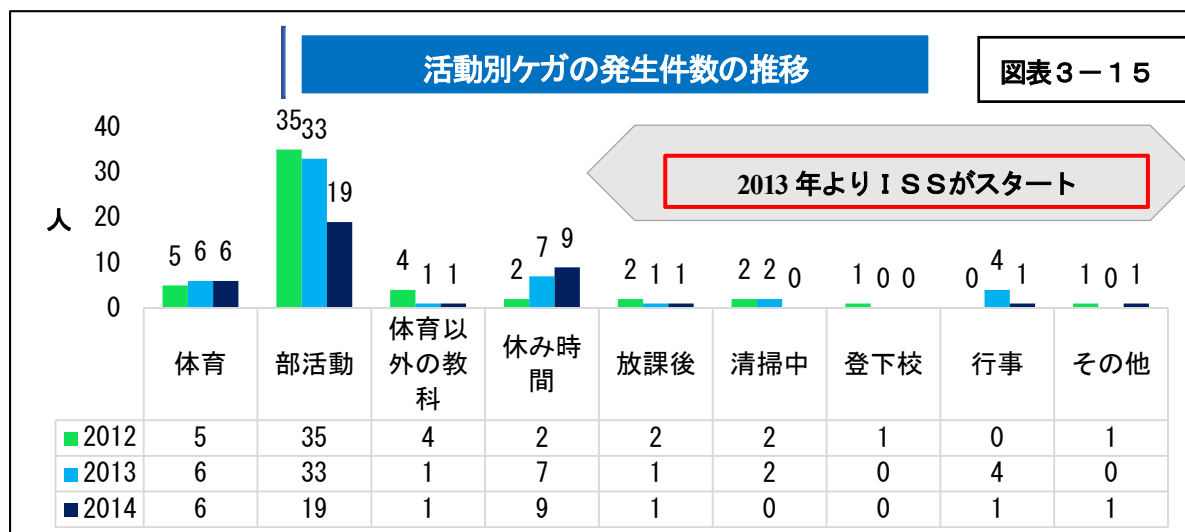
図表 3-13



曜日別の発生件数は、月・火・金と多く見られました。土・日は部活動練習・練習試合等でのケガの発生がありました。



時間帯発生件数 【10：00～12：00〔体育の授業中〕 16：00～18：00〔部活動中〕の時間帯が多くなっています。】



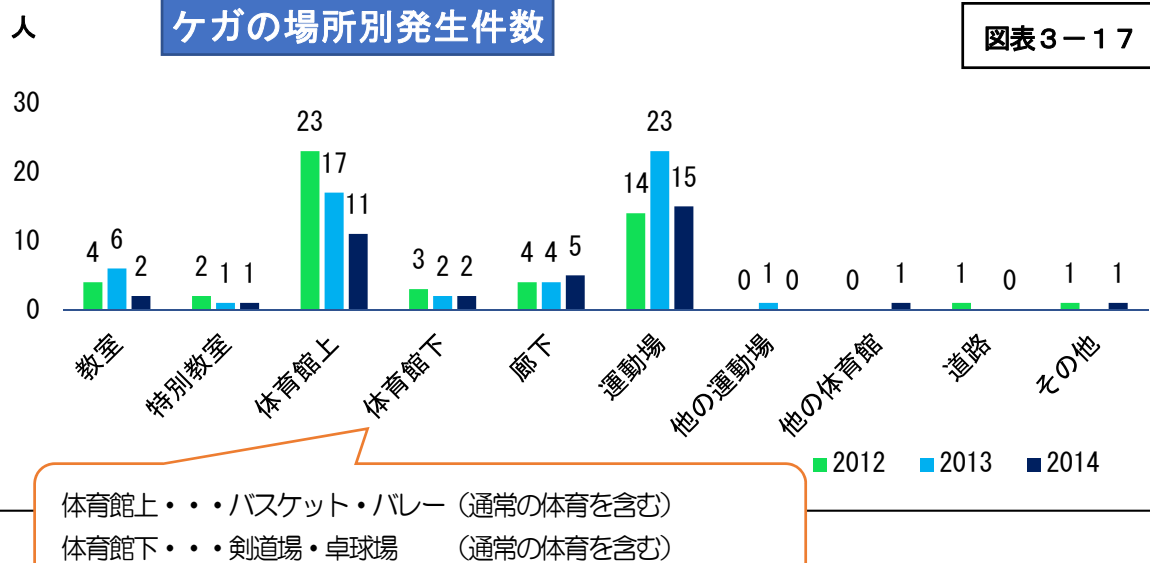
野球、バスケットにケガが多い

ケガの部活動別発生件数の推移

部活動でのケガの発生が圧倒的に多くなっています。（図表３－１５参照）

ケガの種目別発生件数の推移

接触のある部活動（バスケット・サッカー）のケガが多くなっています。次いで野球・バレー部のケガが多くなっています。（図表３－１６参照）



部活動中のケガが多いため、活動場所の体育館・運動場でのケガが多くあります。

ケガの種類別発生件数の推移

図表 3-18

このうち、運動によるケガの人数（骨折）

2012年 8人

2013年 7人

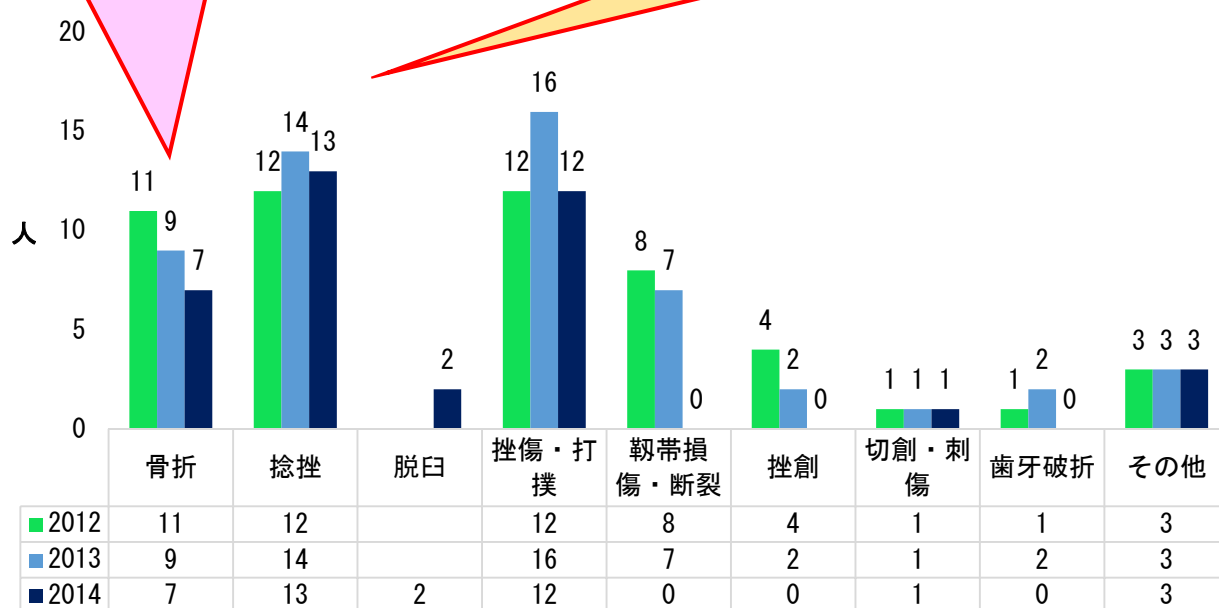
2014年 6人

このうち、運動によるケガの人数（捻挫）

2012年 9人

2013年 11人

2014年 13人

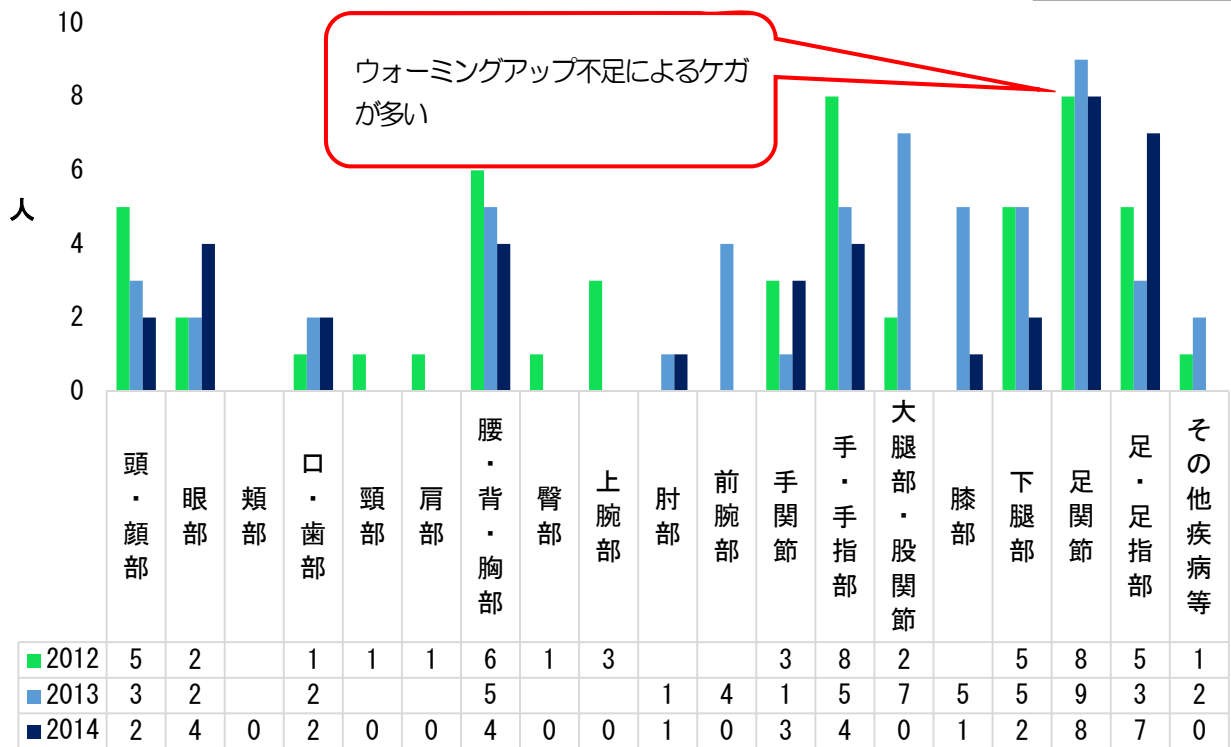


ケガの負傷別発生件数

負傷別発生件数では、プレー中の接触による挫傷・打撲・骨折、走ったりジャンプをしたりしての捻挫が多くなっています。

ケガの部位別発生件数の推移

図表3-19



部位別発生件数

足関節・足指部・手指部・胸・背・胸部が多くなっています。運動プレー中の接触、不注意によるケガ、走っていて転倒等が原因と考えられます。また、ウォーミングアップ不足からのケガも多くあります。

【接触プレーのバスケット・野球・サッカーが多く発生しています。】

2 校外のケガ

(1) 秩父市救急搬送(2008年~2012年) 全体=1,494件

20歳未満の交通事故に関する救急搬送件数

図表3-20

	10~14歳	15~19歳
自転車運転中	25件	40件
バイク・原付運転中	1件	45件
自動車搭乗中	22件	61件

出典：秩父市救急搬送データ

市内の交通事故のうち、10代の救急搬送(2008~2012年)の状況を見ると、中学生(10代前半)では、自転車乗車中が最も多い状況です。

(2) 学区域内の交通事故発生件数

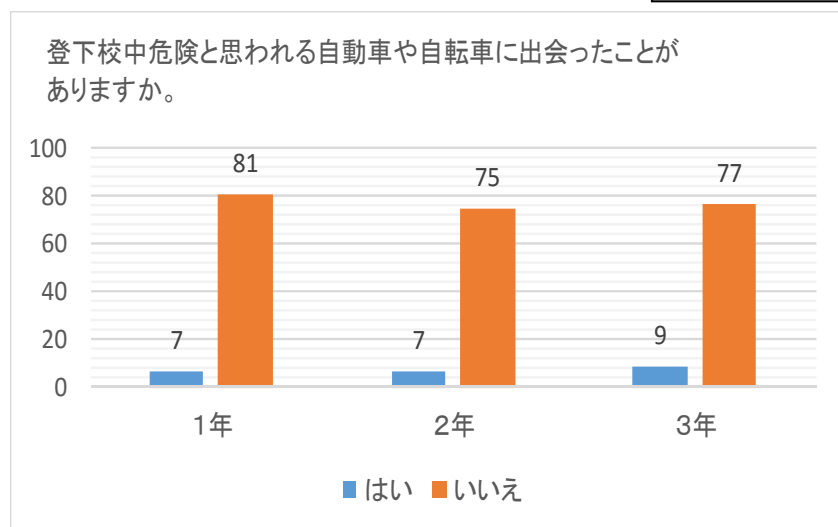
過去2年間に発生した学区域内の交通事故発生件数は3件(いずれも自転車によるもの)ありました。登下校時における事故発生件数はゼロでした。

(3) ヒヤリ・ハット体験(2015年3月 安全に関する意識調査)

登下校中の自動車や自転車に関するヒヤリ・ハット体験

全体=256人 はい=23人 いいえ=233人

図表3-21



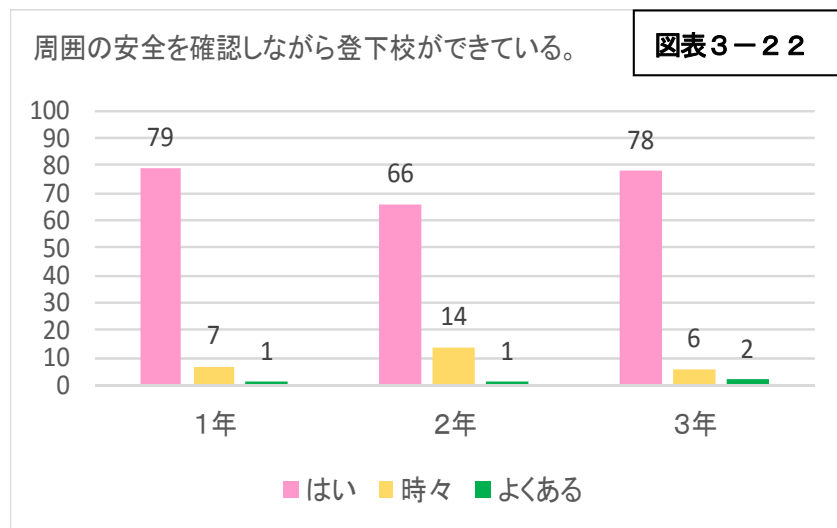
「はい」と答えた生徒が23人(全体の約9%)いました。その内訳は、狭い道でも早いスピードで通る自動車や自転車、信号を無視する車、一時不停止の車などによるものです。

（４）本校生徒の安全に関する意識（２０１５年３月）

安全に関する意識調査から、生徒の安全に関する意識をみると、以下のような傾向がみられました。

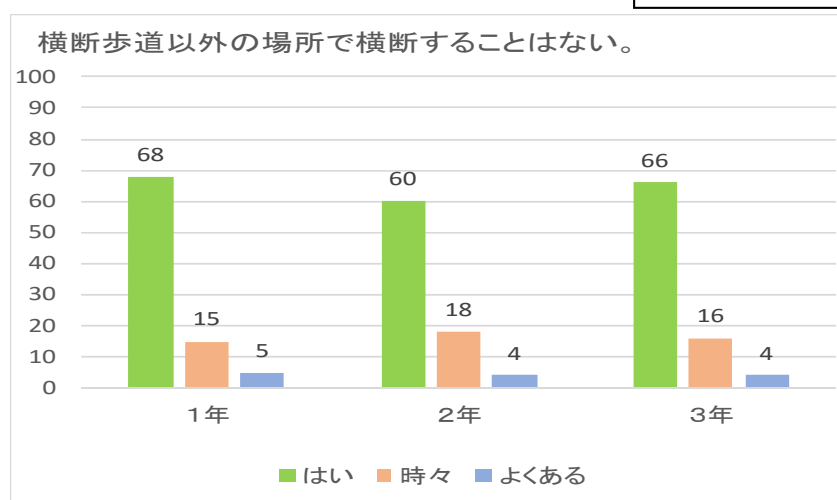
全体＝２５４人 はい＝２２３人 いいえ＝４人

登下校の安全行動（安全確認）



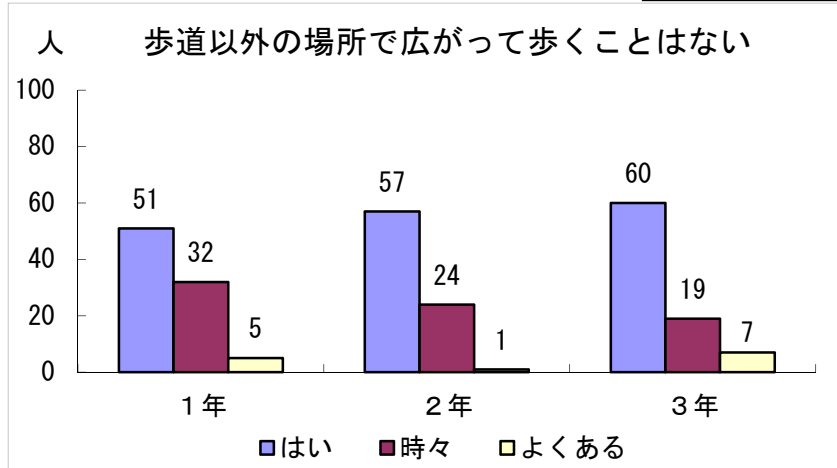
「いつも周囲の安全を確認しながら登下校できている」と答えている生徒は２２３人(全体の８８．７％)と高い割合にありました。

登下校の安全行動（道路横断）



「広い道路で、横断歩道以外の場所で、横断することはない」と答えた生徒は１９４人(全体の７５．８％)でした。

登下校の安全行動（歩道での行動）



すなわち、図表３－２１から安全に対する意識（交通ルールや交通標識等の重要性の理解）はあるものの、図表３－２２、２３からわかるように実際の生活では、安全な行動をとっていないことがわかります。

3 心のケガ（いじめや友人関係のトラブルでの欠席や悩み）

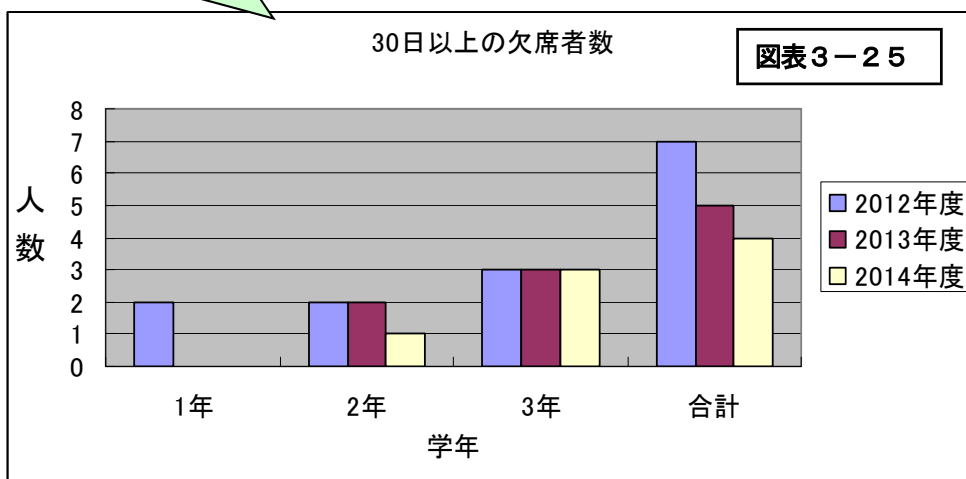
長期欠席の生徒の多くは、学校で友人などとのよい人間関係を築けないことが原因となっています。人間関係がうまく築けないと、いじめや心の傷につながります。そこで、長期欠席の生徒の状況を注視しています。

（１） 30日以上欠席のある生徒（病欠生徒を除く）の推移

図表3-24

	1年	2年	3年	合計
2012年度	2	2	3	7
2013年度	0	2	3	5
2014年度	0	1	3	4

2012年度には7人の病気以外で30日以上欠席者でしたが2013年度・2014年度と減少傾向にあります。



2012年
生徒数 339人

2013年
生徒数 316人

2014年
生徒数 280人

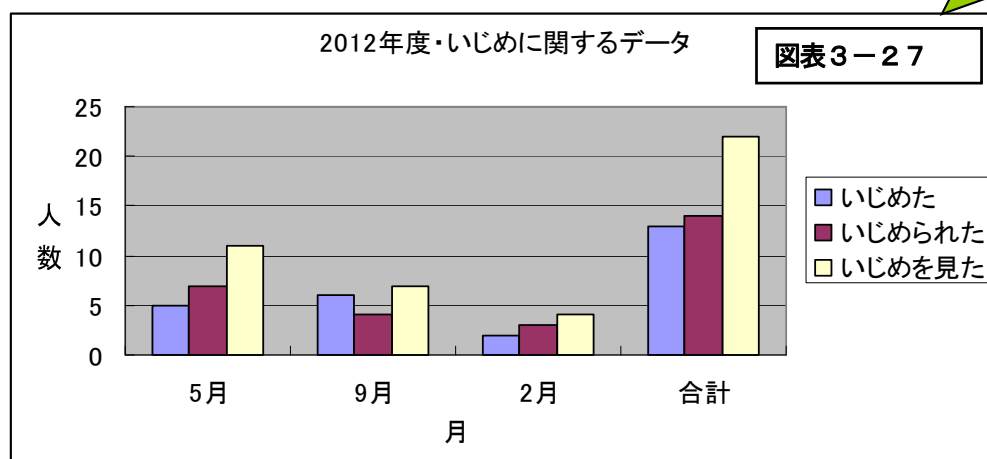
（２） 生活アンケートの結果より

いじめに関する経験（2012年）

図表3-26

2012年度	5月	9月	2月	合計	割合(%)
いじめた	5	6	2	13	3.8
いじめられた	7	4	3	14	4.2
いじめを見た	11	7	4	22	6.5

2012年度の5月の件数から、2月の件数を見ると減少傾向にあります。



図表3-28

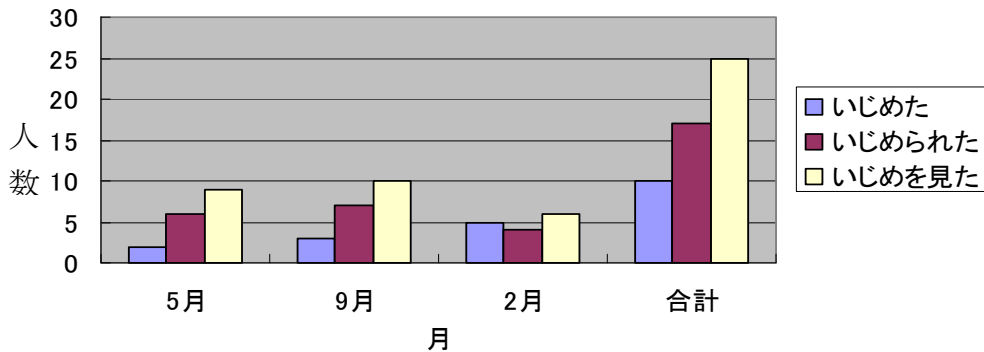
いじめに関する経験（2013年）

2013年度	5月	9月	2月	合計	割合(%)
いじめた	2	3	5	10	3.1
いじめられた	6	7	4	17	5.4
いじめを見た	9	10	6	25	7.1

2013年度は、月が進むにつれて件数が減少傾向にあります。

2013年度・いじめに関するデータ

図表3-29



図表3-30

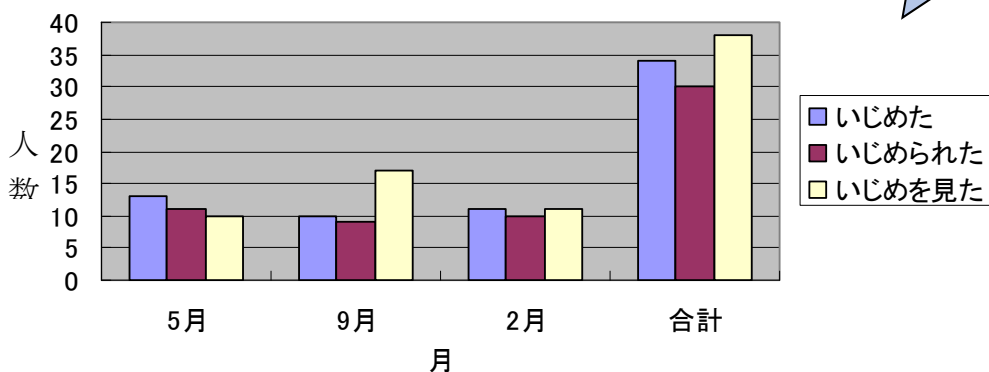
いじめに関する経験（2014年）

2014年度	5月	9月	2月	合計	割合(%)
いじめた	13	10	11	34	12.1
いじめられた	11	9	10	30	10.7
いじめを見た	10	17	11	38	13.6

2014年度の件数は、2013年度からの推移をみると、増加傾向にあります。

2014年度・いじめに関するデータ

図表3-31



いじめに関する経験（2015年）

図表3-32

2015年度	5月	9月	2月	合計
いじめた	2			
いじめられた	6			
いじめを見た	9			

2015年度は、2012年度からの4年間の推移をみると、減少してのスタートがきれました。



(3) 携

これらのいじめは、年度内に100%解消しています。

帯電話アンケート（メー

ルやネット利用状況調査)

携帯電話（スマホ）は、とても便利なものですが、使い方1つで、いじめやネットトラブルに巻き込まれ、それがきっかけで不登校になったり、友人関係がうまくいけなくなったりすることがあります。近年では全国的にもネットによるいじめの増加が注視されています。

図表3-33

2014 年度・携帯電話アンケート		1 年 (88 名)	2 年 (90 名)	3 年 (102 名)	合計 (280 名)	合計の割合 (所持者の割合)
インターネットの利用でトラブルや問題を経験しましたか？		5	10	8	23	8.2%
携帯所持の時期	小学4年生以前	13	5	11	29	10.4%
	小学5年生	7	3	3	13	4.6%
	小学6年生	10	4	5	19	6.8%
	中学1年生	6	3	10	19	6.8%
	中学2年生		3	7	10	5.2%
中学3年生				1	1	1.0%
家族で携帯利用のルールを決めていますか？						
		22	10	23	55	(60.4%)
		1	0	1	2	(2.2%)
		13	8	13	34	(37.4%)
フィルタリングをしていますか？						
		12	3	3	18	(19.8%)
		0	0	2	2	(2.2%)
		0	2	4	8	(8.8%)
		3	2	6	11	(3.9%)
		2	1	5	8	(12.1%)
		2	2	1	5	(5.5%)
		17	8	16	41	(45.1%)

- ・3割の生徒が携帯電話を所有しています。
- ・小学生のときから所有している者が61名(21.8%)います。
- ・ネットトラブルを経験した者は23名(8.2%)います。
- ・携帯電話所持者の6割がルールを決めています。
- ・携帯電話所持者の4割が利用のルールがなく、自由にインターネットが利用できる環境にあります。

(4) 生活アンケート（睡眠時間と携帯電話等の利用状況調査）

睡眠を十分にとっていない生徒は、気持ちが不安定だったり、スマホを長時間使っていたりする事例が見られます。心身ともに安全な生活を送るためにも十分な睡眠や携帯・スマホなどの利用状況を確認しています。

図表 3-34

2014年1年(88人) 2年(82人) 3年(96人) 2015年1年(121人) 2年(87人) 3年(81人)		2014年・5月			2015年・5月		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
何時頃寝ますか？ (月～金)	PM 9:00 までに寝る	4	3	0	6	3	1
	PM10:00 までに寝る	24	5	2	40	9	4
	PM11:00 までに寝る	35	28	23	37	28	17
	PM12:00 までに寝る	19	28	44	29	37	31
	AM12:00 過ぎに寝る	6	18	27	9	10	28
ゲーム機でメールやインターネットをしますか？	15分以下	11	8	11	31	15	16
	30分以下	12	12	15	17	12	7
	1時間以下	12	7	28	13	11	14
	1時間を超える	9	16	9	14	12	15
携帯電話で通話やメールを1日にどれだけ使いますか？	15分以下	10	4	8	15	9	11
	30分以下	5	2	9	13	12	7
	1時間以下	6	4	10	5	15	12
	1時間を超える	7	9	10	7	8	7
スマホゲームを1日どれだけ行いますか？	15分以下	11	4	5	15	8	9
	30分以下	8	1	6	18	13	14
	1時間以下	3	1	7	19	8	9
	1時間を超える	9	8	5	9	8	6

〈単位：人〉

- ・就寝時刻は、PM11:00以降の生徒が半数以上います。
- ・ゲーム機でメールやインターネットをする生徒が増えています。
(ゲーム機で1時間以上する人 2014年5月(34人)→2015年5月(41人))
- ・1日に1時間以上、メールや通話、ゲームをしている生徒もいます。

これらの状況を整理し、本校の重点課題と目標を次の通り設定しました。
これらの課題について、指標1～8を通して取り組みました。

図表3-35

ケガなどの発生状況		課 題	目 標
身 体 的 側 面	校 内	【保健室来室者データから】 ○体育の授業、運動会（練習含む）でのケガが多い《図3-5, 6, 7, 8, 9》 ○休み時間の不注意によるケガが多い《図3-8》 ○部活動のケガが多い《図3-6》 【医療機関にかかったケガの記録から】 ○体育でのケガが多い《図3-14》 ○運動部活動でのケガが多い《図3-14, 15, 16, 17》 ○部活動のケガは治療を要することが多い《図3-14》 ○接触プレーでのケガが目立つ《図3-18, 19》	運動中（体育・部活動）でのケガを減らす 不注意等によるケガを減らす 通院を要する大きなケガを減らす
	校 外	【本校における交通事故発生状況】 ○過去3年間の交通事故は3件（すべて自転車乗車中）《17 ページ記述より》 ○過去3年間の登下校時の交通事故はゼロ件《17 ページ記述より》 【生徒による安全意識調査】 ○横に広がって歩く生徒がやや多い《図3-24》 ○横断歩道以外の場所で横断する生徒がいる《図3-23》 ○自転車で外出するとき、周囲の安全に気を配らない生徒がいる《図〇-〇》 【教師・保護者から見た生徒の実態】 ○横に広がって歩く生徒が多い ○道路の両端を並列歩行している箇所がある ○交通ルールを守らずに、自転車を運転する生徒がいる	交通ルールの遵守と安全への気配り 周囲に配慮した自転車の乗り方（マナーの向上） 交通事故を減らす 自転車乗車中の事故を減らす 交通ルール・マナーを守り危険を回避する力を身につける
	精 神 的 側 面	【生徒の実態から】 ○携帯電話の所持率は35%《図3-33》 ○携帯電話、インターネットによるネットトラブルがあるため、ルールづくりの必要がある《図3-33》 ○いじめがある《3-26～32》 ○コミュニケーションの苦手な生徒がいる《図〇-〇》 【アンケートの結果から】 ○不登校生徒（30日以上欠席者）が数名いる《図3-24, 25》 ○ネットトラブルが存在している《図3-33》	自他を思いやる心や態度 いじめが起きない環境 インターネットの危険を知り安全に使用する コミュニケーション能力を高める 不登校生徒の減少を目指す

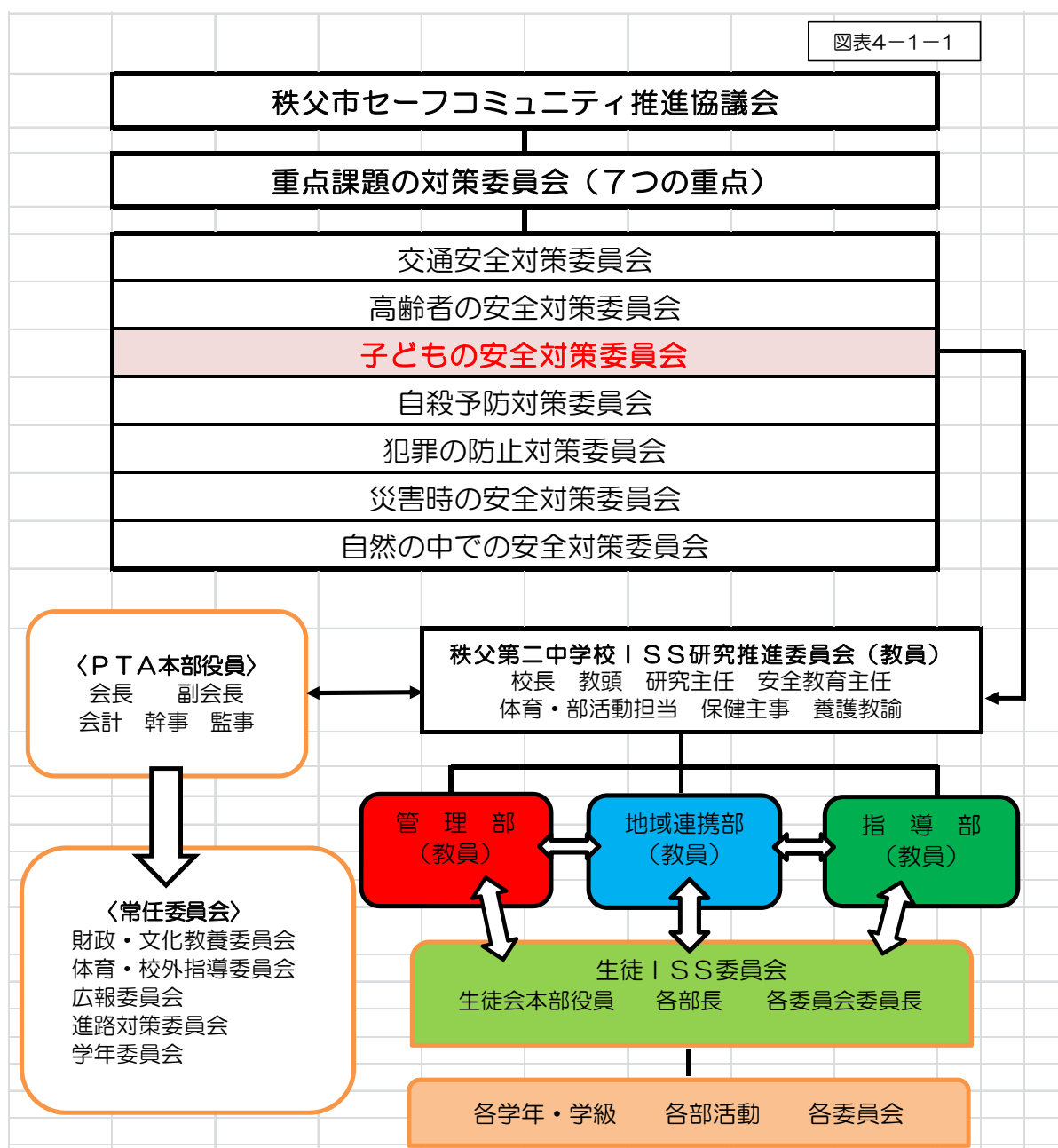
第4章 8つの指標に基づいた取組

指標1 教師、生徒、事務職員、保護者等の協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制が整備されている。

1 セーフコミュニティとの連携

本校のISS活動は、秩父市が進める「秩父市セーフコミュニティ推進協議会」との連携・協働によるものです。特に、子どもの安全について取り組んでいる「子どもの安全対策委員会」と連携して取り組んでいます。

図表4-1-1



（１）秩父第二中学校ＰＴＡ

本校ＰＴＡは、保護者と教職員が協力して様々な取組を行っています。中でも、ＰＴＡが主体となって取り組んでいるのは、校内巡回、校外パトロールです。特に校内巡回は、２～３人一組となり、ほとんど毎日行っています。また、ＰＴＡが児童・民生委員や更生保護女性会等と連携しながら地域ぐるみで活動することにより、学校を取り巻く環境の整備や生徒を地域で育てることが可能となっています。

（２）花の木小学校・南小学校との連携

- ・ 年数回、ＩＳＳ担当者会議を開催し、小学校と情報交換、並びに取組についての意見交換を行い、連携して取り組んでいます。
- ・ 小学校で実施した校内研修（スマホ利用に関する研修）に参加するなど、小・中一緒に研修に取り組んでいます。
- ・ 生徒ＩＳＳ委員会を中心に登校安全指導を小学校の周辺（正門前等）で実施し、小学生にも安全な登校を呼びかけています。

（３）セーフコミュニティ・地域に関するつながり

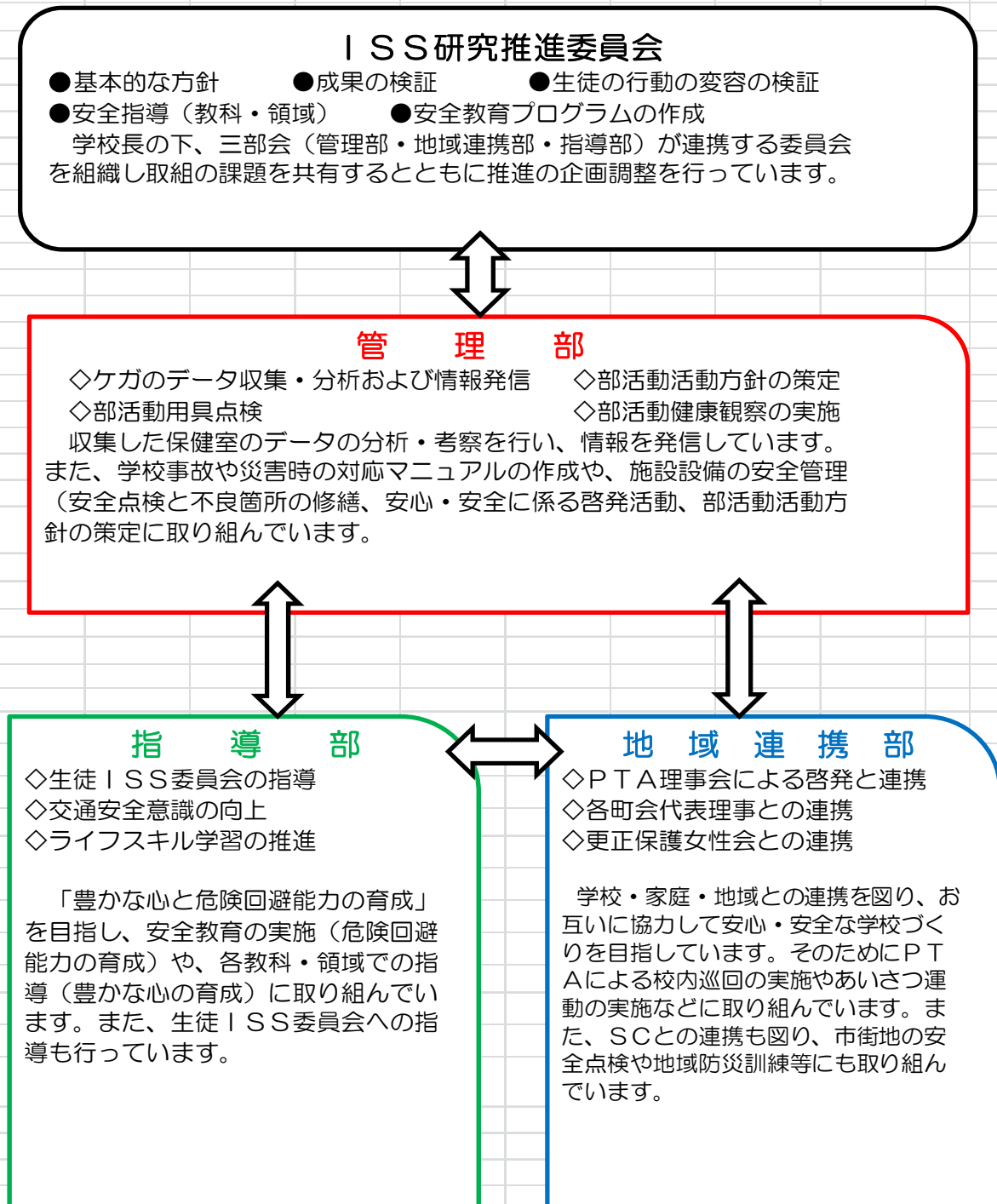
- ・ 秩父市セーフコミュニティ推進協議会の「子どもの安全対策委員会」において基本的な方策を協議し、連携して取り組んでいます。
- ・ 「子どもの安全対策委員会」では、小・中学生のケガが多く発生していることや自転車運転中の外傷が多いこと、ネットトラブル、いじめ等の認知件数が増加していることに対する予防と対策を重点的に行っています。これを受けて、本校のＩＳＳ活動を進めています。

2 校内の推進体制（教員）

（１）教員の体制

全ての教員は、管理部、指導部、地域連携部の3つの部会に分かれて、ＩＳＳ活動に取り組んでいます。ケガデータや意識調査をもとに、原因分析や考察を行い、予防対策を組織的・継続的に行っています。

図表4-1-2



（２） 各種委員会、部活動の取組（生徒）

各種委員会、部活動は生徒 ISS 委員会で決まった内容を受けて、様々な取り組みと見直しを行い、安心・安全な学校づくりに向け、各活動の充実を図っています。

生徒会スローガン

「 改 進 」
～現在から一歩前へ～

生徒実践目標

責任感を持って行動する生徒
～よりよい二中を目指す～

生徒 ISS 委員会として

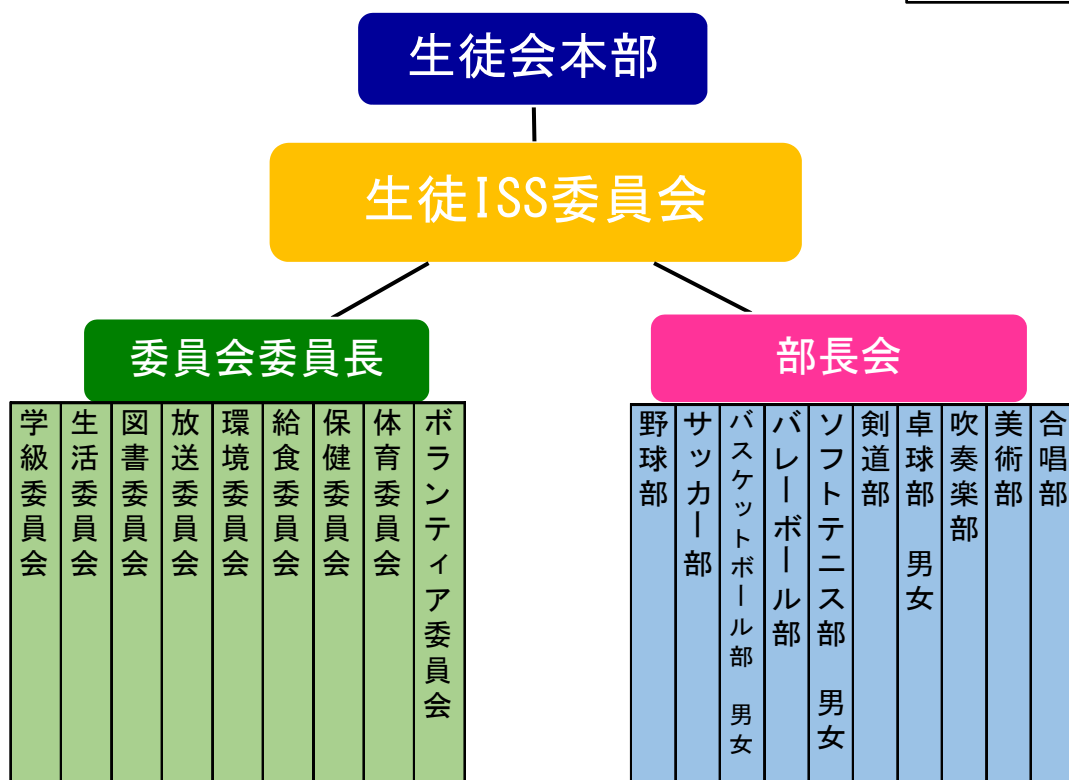
私たち一人一人がこの秩父第二中学校をよくしていこうという意識を強め、各委員会で ISS 認証に向けて取り組んでいます。生徒会本部としても、いじめのない、誰もが安心・安全に生活できる学校になるよう、ポスターづくりや呼びかけを行っていきます。生徒全員で協力して、地域に誇れる秩父第二中学校にしていきたいと思います。

生徒は、各委員会の会長と放課後の部活動の部長からなる「正と ISS 委員会」を組織しています。各種委員会、部においても、各々の立場から安全向上の取組を進めています。

*◎が付いた取組は ISS によって新たに始めた取組。

生徒による ISS 活動組織図

図表 4-1-3



指標2 組の方針（政策）は、セーフコミュニティの文脈に基づき、自治体や教育委員会等の方向性と一致している

本校のISS活動は、以下の通り、国、埼玉県、秩父市SCの方向性と一致しています。

1 「学校安全の推進に関する計画」 一文部科学省2012年ー

文部科学省は、2012年4月に今後5年間（2012～2016年）の学校安全の推進に関する施策の基本的方向性を定め、より実証的な学校安全施策の推進として、セーフスクールへの取組を推奨しています。

より実証的な学校安全施策の推進

- セーフプロモーションの考えに基づいた施策展開
 - ・事件・事故災害に関する情報収集体制の整備・充実
 - ・実証的な安全管理につながる分析調査機能の強化
 - ・優れた取組事例（ISSなど）の推奨
- 実証的で科学的な学校安全の取組推進

2 「第2期埼玉県教育振興基本計画」

ー埼玉県教育委員会2014年7月14日ー

埼玉県教育委員会は、2014年7月に第2期埼玉県教育振興基本計画を策定し、今後5年間（2014～2018）に取り組む県教育の基本目標と施策体系を示しています。その中で子どもたちの安心・安全の確保（基本目標Ⅲ 質の高い学校教育を推進するための環境の充実）が目標の1つとして挙げられています。

○施策の方向性

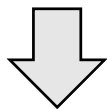
- ・学校における耐震対策を推進します。
- ・児童生徒に危険を予測し回避する能力を身に付けさせます。
- ・学校の危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上を図ります。
- ・児童生徒の生活安全や交通安全（防災）について、家庭や地域、関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。

3 「秩父市学校創造スーパープラン」 ー秩父市教育委員会ー

秩父市教育委員会は「秩父市学校創造スーパープラン」を策定し、取り組むべき教育目標と施策を示しています。その中で、安心・安全な学校環境の整備（目標Ⅳ 質の高い学校教育の推進）を挙げています。

○施策の方向性 【安心・安全な学校環境の整備】

- ・国際認証取得を目指したセーフスクールの推進
- ・「すぐメール」を活用したセーフティネットの充実
- ・自転車通学者へのヘルメットの貸与
- ・地域と連携した見守り活動の推進（スクールガード・学校応援団等）
- ・主体的に行動できる防災教育の推進



4 学校経営方針 【心豊かで自立して生きる生徒】

- | | |
|--------|------------|
| ◎かしこく | 学びを大切にする生徒 |
| ◎つよく | 意欲を大切にする生徒 |
| ◎さわやかに | 自他を大切にする生徒 |

【ビジョン】

さわやかなあいさつ、一人一人を大切に絆を深め、誰もが安心して学べる学校

5 セーフコミュニティにおける学校の安全に関する方針

校内では、安全診断に基づいて、予防対象と方向性を設定した。これらに基づいて、教師・生徒が一体となって取り組んでいる。

予 防 対 象		方 向 性	対 策
校内におけるケガ	部活動中のケガ	生徒の危険回避能力の育成	- 定期的な部活動の安全点検 - 部活動時の健康観察の実施 - 部活動指針の策定 - 運動のウォーミングアップとクールダウン
	授業中のケガ 休み時間のケガ	学校指導体制の改善と充実	- 安全点検の実施 - 安全教育の実施計画の作成
	心のケガ	いじめの防止 (豊かな心の育成)	- ライフスキル学習 - 道徳教育の推進 - アンケートの実施 - 二者面談・三者面談の実施
校外におけるケガ (登下校の安全確保)		交通安全意識の向上	- 交通安全教室の実施 - 登校安全指導の実施 - あいさつ運動の実施 - 生徒 I S S 委員会の取組

第二中学校での安全に関する取組みの全体像（指標3～5）

本校では、従来から様々な取組みが進められており、それらによって基本的な安全課題についてはカバーされています。しかし、セーフスクール活動を通して、活動の内容や実施方法を改善したり、新たに取り組みを開始しています。下記が本校における取組の一覧であり、全ての生徒・教員をはじめ、保護者や地域住民など学校環境での安全にかかわる方をカバーしています。

図表 5-3-1

指標3～5に関するプログラムの全体像

		対象者														
		生徒					教職員				PTA・保護者			地域・来校者		
学校	校内	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-1	3-2	3-4	3-5	3-1	3-2	3-5	3-1	3-30	3-31
		3-10	3-11	3-14	3-16	3-16	3-6	3-7	3-8	3-9	3-6	3-14	3-15			
		3-17	3-19	3-20	3-21	3-24	3-11	3-12	3-13	3-24	3-18	3-24	3-28			
		3-25	3-26	3-27	3-28	3-29	3-27	3-34			3-34					
		3-30	3-32	3-33	3-34											
		4-1	4-4	4-6	4-9	4-10	4-2	4-3	4-4	4-6	4-6	4-9		4-6	4-9	4-10
							4-8	4-10								
		5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-1	5-6	5-7	5-9	5-1	5-9	5-18	5-1	5-9	5-14
		5-7	5-8	5-11	5-12	5-13	5-14	5-18	5-19		5-19			5-18	5-19	
		5-14	5-17	5-18	5-20											
	校庭	3-31	3-34				3-34				3-34			3-31		
		5-3	5-4	5-5	5-8	5-10	5-9							5-9		
学校外	通学路	3-22	3-23	3-26	3-34		3-22	3-23	3-26		3-22	3-23	3-26	3-23	3-30	
	学区	3-34														
		4-5	4-7	4-11			4-7	4-11			4-7	4-11		4-7	4-11	
		5-15	5-16				5-22				5-16			5-1	5-15	
	他地域	5-21					5-21				5-21			5-21		
※		指標3			指標4			指標5								

指標3 長期かつ継続的に運営されるプログラムによって、両性 ・すべての年齢（学年）、環境、状況がカバーされている

従来から、様々な安全に関する取り組みが行われています。

指標3では、それらのうちから外傷予防・安全意識の向上・心の教育の充実の取組を示しました。以前より、取組をしてきたことを中心に紹介していますが、インターナショナルセーフスクールの取組により、データの分析・生徒の実態・アンケートの調査を通して見えてきた課題を反映させ、より効果的な取組みとなるよう改善しているものもあります。

ケガの削減		いじめ撲滅	交通安全	その他(自然災害)
① 取組名・指標	学校保健委員会でのけが統計と分析の発表（年1回）			新規・継続・変更・縮小
対 象	学校医・歯科医・薬剤師・PTA役員・秩父市役所危機管理課・教職員			
担 当 者	保健主事・養護教諭・生徒会本部役員・保健委員会			
内 容	I S Sの認証に向けてケガ統計と分析の発表			
成 果	統計と分析をもとにケガ予防の啓発活動を進めることができた。			
② 取組名・指標	スポーツ振興センター統計の掲示（月1回）			新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員・保護者			
担 当 者	養護教諭・保健委員会			
内 容	月別・活動別・部活動別・場所別等の掲示をしケガ予防の意識を高める。			
成 果	平成25年度・26年度・27年度の3年間の掲示をし、ケガ予防の意識を高めることができた。			
③ 取組名・指標	応急手当の記録（外科的・内科的）（毎日）			新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒			
担 当 者	養護教諭			
内 容	保健室来室の内科・外科的主訴内容や応急手当の内容及び対応の記録			
成 果	内科的・外科的対応を詳細なデータとして記録し、分析することができた。またI S Sによりで統計を提示した。			
④ 取組名・指標	転落事故防止の徹底（通年）			新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員			
担 当 者	安全主任・生徒指導主任・養護教諭			
内 容	転落事故の危険性を認識させ指導する。			
成 果	屋上・ベランダの出入り禁止の徹底を図り、生徒の意識を向上させることができた。			

⑤ 取組名・指標	各種・危機管理マニュアルの作成（通年）	新規・継続・ 変更 ・縮小
対 象	全校生徒・教職員・保護者	
担 当 者	管理職・安全主任・生徒指導主任・給食主任・養護教諭	
内 容	プール・食中毒・感染症・光化学スモッグ・アフィアキ-等のマニュアル作成	
成 果	危機管理の意識を高めることができた。また、ＩＳＳの取組から、全職員で見直しをすることにより、全職員共通の理解を持つことができた。	
⑥ 取組名・指標	人工呼吸・胸部圧迫の手順（ＡＥＤ）の掲示（年１回）	新規・継続・ 変更 ・縮小
対 象	教職員・全校生徒・保護者	
担 当 者	養護教諭	
内 容	保健室前・プールに大型パネルを掲示して、いつでも確認が出来る。	
成 果	ＡＥＤ使用の手順を掲示して、各自で確認ができるようになった。	
⑦ 取組名・指標	事故発生時の時系列の校内体制の作成	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	管理職・養護教諭	
内 容	学校事故緊急マニュアルの見直しをする	
成 果	時系列で対応時間を入れたマニュアルができた。	
⑧ 取組名・指標	環境委員会による生徒安全点検の実施（月１回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員・環境委員会生徒	
担 当 者	安全主任・環境委員会担当	
内 容	各教室・特別教室の安全点検（月１）とストープ点検の実施	
成 果	危険箇所を早期に発見し、修繕することができた。	
⑨ 取組名・指標	学校事故緊急対応マニュアルの記録（発生時）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	管理職・養護教諭	
内 容	校内での負傷・疾病の緊急対応時に時系列で記録をする。	
成 果	事故発生直後から早急な対応することができた。	

⑩ 取組名・指標	スポーツ振興センター・手続きの用紙活用（随時）	新規・継続・ 変更 ・縮小
対 象	学校管理下で医療対象となった生徒	
担 当 者	養護教諭	
内 容	手続きに必要な内容の記録（時間・場所・原因・症状・医療機関等）	
成 果	ケガの振り返りを記入し、ケガ予防の意識の向上をさらに図ることができた。	
⑪ 取組名・指標	心肺蘇生法講座（年1回）	新規・継続・ 変更 ・縮小
対 象	全校生徒・教職員・各部部长	
担 当 者	消防署署員（救命救急士）・保健主事・安全主任・部活動担当者	
内 容	教職員と各部活動部長が心肺蘇生法講座（AEDの使い方）を受講する。	
成 果	迅速な対応が出来るように毎年実施するようにした。	
⑫ 取組名・指標	教職員による安全点検（月1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	安全指導部	
内 容	教職員が担当場所の安全点検を行い、危険箇所の察知と改善を図り、生徒へ周知する。	
成 果	危険箇所の早期発見につなげることができた。	
⑬ 取組名・指標	内科的疾患・問題行動のまとめと提示（週1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	養護教諭	
内 容	毎週行われる生徒指導部会で内科的疾患・問題行動の生徒の状況を1週間ずつまとめて資料として提供する。	
成 果	生徒来室の資料を提供することによって、教職員で共通理解を図り、生徒指導に活かすことができた。	
⑭ 取組名・指標	本とスマホのメリット・デメリット（通年）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・保護者	
担 当 者	図書館司書・図書委員会	
内 容	本とスマホのメリット・デメリットを考え、心の栄養になる読書の推奨をした。	
成 果	スマホの使い方や読書の大切さを改めて知ることができた。	

⑮ 取組名・指標	家庭への連絡カードの活用（随時）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	内科的・外科的対応をした生徒の保護者	
担 当 者	養護教諭	
内 容	保健室に来室した生徒の対応で、休養したり連絡が必要だったりする場合に使用する。	
成 果	状況を細かく家庭に知らせることができた。	
⑯ 取組名・指標	ストレスチェックの実施（年1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	生徒指導主任・さわやか相談員	
内 容	ストレスチェックカードの記入をして、さわやか相談員との個別相談にいかす。	
成 果	ストレスチェックをまとめ、1人1人の状態をグラフ化して、教職員に資料を提供することができた。	
⑰ 取組名・指標	生活アンケートの実施（学期1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	担任・生徒指導担当	
内 容	生活に関するアンケートを実施し、いじめ等の早期発見につなげる。	
成 果	自己の振り返りを行い、生活改善に結びつけることができた。	
⑱ 取組名・指標	保護者による、いじめに関するアンケートの実施（年2回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	保護者	
担 当 者	生徒指導担当・担任	
内 容	年2回、無記名方式で保護者によるいじめに関するアンケートを実施する。	
成 果	保護者からの情報をいじめの早期発見につなげると共に、いじめの抑止につなげることができた。	
⑲ 取組名・指標	さわやか相談員による個別相談（随時）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	1，3学年	
担 当 者	さわやか相談員	
内 容	1学期1学年、2学期3学年全生徒を対象に個別相談を行い、生徒の様々な悩みや不安の早期発見に努め、その軽減を図る。	
成 果	生徒一人一人の悩みや不安を早期に発見すると共に、和らげることができた。	

②① 取組名・指標	ライフスキル学習の充実（年間各学年6回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	ライフスキル学習担当・担任	
内 容	年間6回のプログラムを各学級で実施する。	
成 果	人間関係の改善や問題等の対処法について学ぶことができた。	
②② 取組名・指標	人権に関する作文・メッセージの作成（年1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	人権担当主任	
内 容	人権に関する作文・メッセージを作成し、廊下に掲示をする。	
成 果	人権に関する意識を高めることができた。	
②③ 取組名・指標	自転車安全5則の作成（通年）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒・保護者	
担 当 者	交通安全部・生徒指導主任	
内 容	基本ルール「自転車5則」のルールを守り安全に利用する。	
成 果	自転車通学者はヘルメットを着用するようになり、より安全に通学できるようになった。	
②④ 取組名・指標	登校安全指導の実施（月1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒・地域	
担 当 者	教職員・保護者	
内 容	毎月、交通量の多い道や交差点で登校時の生徒の登校状況を確認し、安全指導を行う。	
成 果	交通安全に関する生徒のマナーが向上した。	
②⑤ 取組名・指標	明るく安心して学べる学校作り協力校講演会（年1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員・保護者	
担 当 者	生徒指導担当	
内 容	埼玉県警（あおいとり）による「命の大切さを学ぶ教室」を実施する。	
成 果	犯罪被害者遺族の話を聞き、命の大切さについて真剣に考えることができた。	

②⑤ 取組名・指標	通学路の安全マップの作成（通年）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	安全主任	
内 容	通学路の危険箇所の確認	
成 果	通学路の危険箇所を知らせるためのマップを作成し、登校指導を行い安全を確保できた。	
②⑥ 取組名・指標	安全意識調査（年2回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	教員	
内 容	年度の初めと終わりに安全に対する意識調査	
成 果	生徒の安全意識の受容をアンケートによって把握し、課題解決に結びついた。	
②⑦ 取組名・指標	薬物乱用防止教育の実施（年1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	2学年生徒・教員	
担 当 者	学校薬剤師	
内 容	健康な生活を送るためにゲートドラッグ（飲酒・喫煙）の危険性について学ぶ。	
成 果	成長期に及ぼす飲酒・喫煙の害を学習することができた。	
②⑧ 取組名・指標	防犯教室（年2回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	各学年生徒・保護者	
担 当 者	保健担当	
内 容	2学年「薬物乱用防止教室」、3学年「性教育講演会」を実施する。	
成 果	安全に対応する知識を得て、自他を大切にする意識が向上した。	
②⑨ 取組名・指標	保護者による校内巡回（毎日）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	PTA本部役員・全保護者	
内 容	1学期3学年、2学期2学年、3学期1学年の保護者が交代で授業や休み時間、給食、清掃活動を見学しながら校内巡回を行う。	
成 果	全保護者が生徒の学校生活に関わることで、安心・安全の充実を図ることができた。	

③⑩	取組名・指標	あいさつ運動の実施（月1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
	対 象	全校生徒・地域	
	担 当 者	教職員、保護司会・更生保護女性会	
	内 容	生徒の登校時に校門であいさつ運動を実施する。	
	成 果	地域の方と教職員が共に、生徒の登校時にあいさつ運動を行い、一日の始まりを見守ることができた。	
③⑪	取組名・指標	生徒によるあいさつ運動の実施（週1回）	新規 ・継続・変更・縮小
	対 象	全校生徒・地域	
	担 当 者	生徒会本部役員・学級委員会	
	内 容	毎週木曜日の朝、生徒会本部役員と学級委員が校門付近であいさつ運動を実施する。	
	成 果	生徒の生徒によるあいさつを実施することにより、より良い人間関係を築くと同時に、いじめ防止につなげることができた。	
③⑫	取組名・指標	毎月の生活目標に対する反省（月1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
	対 象	全校生徒	
	担 当 者	生活委員会	
	内 容	毎月の生活目標に対する自身の行動を振り返り、自己の生活の向上を図る。	
	成 果	自分自身を振り返り、自他を大切にする心を育むことができた。	
③⑬	取組名・指標	学期の反省（学期1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
	対 象	全校生徒	
	担 当 者	担任・生徒指導担当	
	内 容	毎学期、自分自身の生活を振り返り、自己の生活の向上につなげる。	
	成 果	自分自身を振り返り、安全な生活も含め、よりよい生活につなげることができた。	
③⑭	取組名・指標	SC（セーフコミュニティ）との連携（年4回）	新規 ・継続・変更・縮小
	対 象	全校生徒	
	担 当 者	教員	
	内 容	子どもの安全対策委員会の地域診断による課題への取組	
	成 果	SCと連携して、通学マナーやネットトラブル、いじめ等の課題に取り組むことができた。	

《指標3の取組みの事例》

ケガ防止への啓発活動（指標3－①・指標3－②）

図表4-3-2

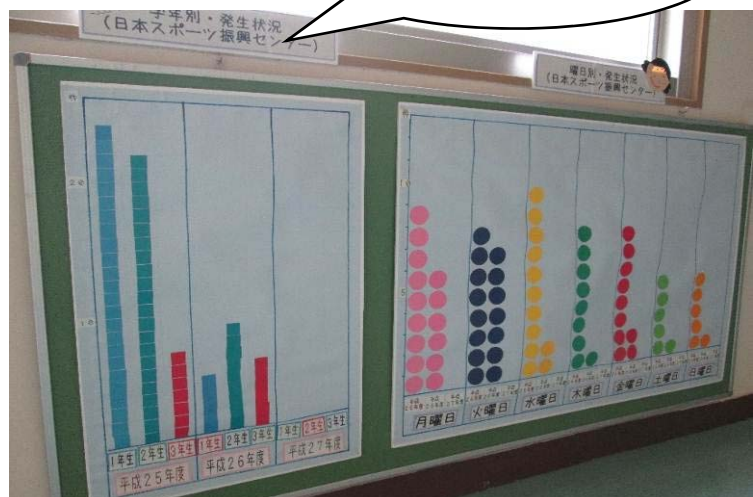


保健委員会が毎月、統計をしてデータを掲示しています。

部活動指針
ガイドライン



ケガ統計（月別・学年
別・曜日別・場所別等）



ケガの場所別掲示

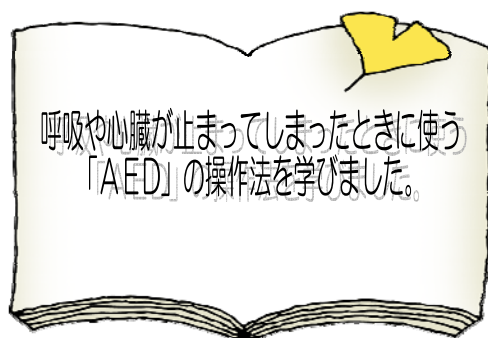
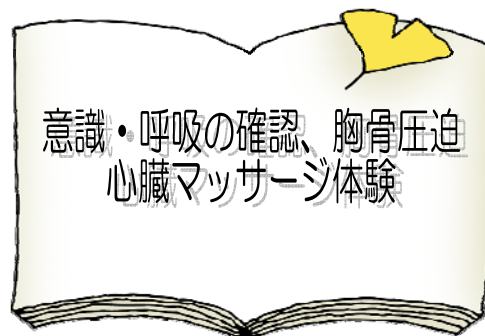


生徒保健委員会が
毎月、掲示をします。



生徒・教職員合同救命講習会 （指標3－⑥⑪）

37日間の夏季休業日（7月～8月）を前に、生徒の生命に係る応急手当の技能習得のため、秩父消防署員を講師に招き、各部活動から代表の生徒と職員の合同救命講習会を行いました。



目 的	教職員と生徒の危機対応能力の向上を目指す。		
内 容	心肺蘇生法とAED使用法	事故防止のための研修会	
実施者	秩父消防署	教職員	
主な対象者	生徒代表【各部長・副部長】	教職員	

委員会の活動

生徒は、従来からの生徒会や委員会、部活動での活動に加えて、安全診断によって明らかになった課題を解決するために、下記のような取組を進めています。

生徒会本部

会 長 1 名・副会長 2 名
書 記 2 名・会 計 2 名
(計 7 名)

- ・あいさつ運動の充実
 - ・各種委員会との連携
 - ・交通安全標語
 - ・ハイタッチ運動
- ◎いじめ撲滅標語
 - ◎いじめ根絶運動
 - ◎ケガ予防の標語

学級委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ・あいさつ運動
- ◎安心・安全のポスターづくり

生活委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ・ゆとり登校運動
 - ・さよなら運動
 - ・チャイム着席運動
- ・学校内や登下校などの安全啓発
 - ◎安全のためのポスターづくり

図書委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ・“本とスマホ”のメリットとデメリット
 - ・読書活動の推進
- ◎安全やケガ予防の図書の紹介
 - ◎防災コーナーの設置

環境委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ・ストーブ安全点検の実施
 - ・美化コンクールや教室整備の実施
 - ・学習環境改善
- ・清掃用具の点検
 - ◎校内安全点検

給食委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ・手洗い、アルコール消毒の呼びかけ
 - ・運搬、配膳の身だしなみ確認
- ◎給食標語の作成

保健委員会

各学級 2 名 (計 20 名)

- ◎ケガの統計と分析
 - ◎ケガ防止の啓発運動
 - ◎防災グッズチェックリストの作成
 - ◎ワークショップ実施 (地震対応)
- ◎ケガの手当ての方法
 - ◎思いやりの傘運動

体育委員会

各学級2名（計20名）

- ・授業でのケガの防止に向けた準備運動
- ・安全な用具準備と片付け ◎ストレッチの呼びかけ

放送委員会

各学級1名（計10名）

- ・清掃時の意識を高めるための放送
- ◎下校時の交通事故防止呼びかけ
- ◎交通マナーの呼びかけ

ボランティア 委員会

各学級2名（計20名）

- ・二中学区の地域清掃
- ・募金活動等の奉仕活動
- ◎朝ボランティアで校内の安全点検

本校では、特に、運動関係の部活動においてけがが多くみられることから、それぞれの部活動のなかでも外傷予防・安全向上の取組を進めています。

部活動

- ◎ケガの予防のための準備運動
- ◎部活動前の健康観察
- ◎整理運動の徹底（十分なクールダウン）
- ◎ケガの状況の報告
- ◎活動場所や施設用具の整備と点検

指標４ ハイリスクのグループ・環境及び弱者グループを対象としたプログラムがある

本校では、下記のグループ（集団）や環境をハイリスクとして設定し、その安全向上に努めています。

図表４－４－１

分類	該当者・環境	根 拠	取 組
グループ	(１) 特別支援を必要とする生徒	日常生活や災害時において、安全の確保がより困難である。	①
	(２) アレルギーを持つ生徒	アレルギー反応への迅速な対応がなければ、命にかかわる。	②
	(３) 欠席者	心のケガの早期発見に対応するため	③
環境	(１) 熱中症	体育や部活動時には、熱中症などの危険が高まる。	④
	(２) 夏季休暇	夏休み中に生活リズムが変わったり、友好関係が変わったりすること、また指導の目が届きにくくなることで、非行に傾く可能性が高くなる。	⑤
	(３) 自然災害	日本及び秩父市では、災害発生の可能性が非常に高い。	⑤⑦⑧⑨⑩⑪

１ ハイリスクグループ

(１) 特別支援を必要とする生徒

① 取組名・指標	就学支援委員会（特別支援教育）に係わる担当者会議	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	特別支援を必要とする生徒	
担 当 者	教職員	
内 容	校内の就学指導委員会では、随時、特別支援コーディネーターを中心に生徒の情報交換・指導法等の個別対応の会議を実施し、万が一の事故等にも備える体制を整えている。	
成 果	特別支援を必要とする生徒に対しての指導法が共有できた。	

（２）アレルギーを持つ生徒

② 取組名・指標	アレルギー対応（年１回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	学校医 養護教諭	
内 容	アレルギー対応でアナフィラキシー対応として、学校医の指導のもと、練習用のエピペンを用いて模擬訓練を実施しました。 学校医（太ももに射して下さい。） 	
成 果	アナフィラキシー対応と、エピペンの使い方がわかった。	

食物アレルギー23人 アナフィラキシー1名→エピペン1名

アレルギー疾患には、気管支ぜん息や食物アレルギー・アナフィラキシーのように緊急の対応を要する疾患があります。特に、アナフィラキシーは非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあるので、緊急時に備えてアドレナリンの自己注射薬である「エピペン」や内服薬等が処方されている生徒がいるので、教職員の誰が発見者になった場合でも適切な対応がとれるように教職員全員が情報を共有し、常に準備をしておく必要があります。

（３）長期欠席生徒

③ 取組名・指標	欠席者への対応確認事項マニュアルの活用（毎日）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	生徒指導主任・養護教諭	
内 容	欠席者の健康状態の把握・感染症対策と不登校への対応をする。 連続で3日以上欠席者に担任と学年職員が家庭訪問し様子を確認する。 また、欠席が心配な生徒に対してもスクールカウンセラー、養護教諭等と連携し、教育相談やカウンセリングなどを実施している。	
成 果	連続3日以上欠席は電話・家庭訪問・教育相談を行うという共通認識ができた。	

2 ハイリスクの環境

(1) 熱中症

④ 取組名・指標	「知って防ごう熱中症」講演会の実施（年1回）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員	
担 当 者	管理部（体育主任・安全主任・保健主事・養護教諭）→大塚製菓	
内 容	暑さ対策の1つとして「知って防ごう熱中症」の講演会を実施した。	
成 果	熱中症の危険性について学び、予防法を身につけることができた。	

(2) 夏季休暇

⑤ 取組名・指標	校外パトロール（夏期休業日）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	P T A 育成会役員	
内 容	夏季休業中においては消防団と各町会の保護者の方々が町内パトロールを行っている。気づいたことは記録してもらい、学校へ提出しての提出をお願いしている。	
成 果	長期休業中に学区内をパトロールし、生徒の安全確保ができた。	

(3) 自然災害発生時

⑥ 取組名・指標	第二中学校区指定避難場所の作成（新規）	新規・ 継続 ・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員・保護者・地域	
担 当 者	秩父市役所危機管理課・養護教諭・保健委員会	
内 容	秩父第二中学校区の指定避難場所の掲示をして家庭に配布した。	
成 果	生徒の自宅から一番近い避難場所を確認することができた。	

保健委員会ではワークショップを通して、緊急連絡カードの作成・家庭での避難訓練について等、自然災害の対応について意識を高めました。

⑦ 取組名・指標	自然災害の対応マニュアルの作成（通年）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員・保護者・地域	
担 当 者	管理職・安全主任・生徒指導主任・養護教諭	
内 容	豪雪・大雪・土砂災害・落雷に対して被害を未然に防いだり、また被害を最小限に抑えるよう策定した。	
成 果	「備える」「命を守る」「立て直す」の3つの観点から、災害時の対応に関する意識の向上を図ることができた。	

⑧ 取組名・指標	自然災害時の安全点検の実施 （災害時の後）	新規・継続・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	管理職・安全主任・生徒指導主任	
内 容	自然災害発生時（大雪・台風・落雷等）の安全点検を実施。	
成 果	学校全体の安全点検を実施し、危険箇所を図式化することにより、意識の向上を図ることができた。	

⑨ 取組名・指標	防災グッズチェックリストの作成 （年1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・保護者・地域	
担 当 者	秩父市役所危機管理課・養護教諭・保健委員会	
内 容	「これだけは絶対に必要」「あると便利な用品」の一覧表の作成し、各家庭に配布した。	
成 果	各家庭において、防災に関する意識の向上を図ることができた。	

⑩ 取組名・指標	防災訓練（学期1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員・秩父消防署	
担 当 者	安全担当	
内 容	学期毎に、地震・火災・地震火災複合における災害を想定して避難訓練を行う。	
成 果	避難経路を確認することにより、安全に対する意識を高めることができた。	

⑪ 取組名・指標	地域防災訓練への参加（年１回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	生徒・教職員	
担 当 者	教職員	
内 容	各地域における総合防災訓練への参加	
成 果	各地域の総合防災訓練に参加し、地域の人と共に取り組み、安全意識の向上に結びついた。	

自然災害への対応

２０１１年３月１１日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の教訓から実際に秩父市で経験したことを生かして様々な対策を講じています。

（１）すぐメールの配信（秩父市・第二中学校）を活用した迅速な連絡

緊急時の情報提供を秩父市からと第二中学校から配信します。

各教員・各家庭が登録をします。

秩父市の配信・・・自然災害 等

緊急時に配信される

第二中学校の配信・・・自然災害、不審者情報、各種学校行事 等

緊急時・学校からのお知らせ時に配信される

（２）学校対応マニュアルの基本事項

事前の危機管理〔備える〕

①防災教育 ②防災管理 ③組織活動

発生時の危機管理〔命を守る〕

①情報収集 ②落雷への対応 ③竜巻など突風への対応 ④その他

事後の危機管理〔立て直す〕

①災害対策本部の設置 ②被害状況の把握 ③被害状況を踏まえた対応
④応急的な教育活動の作成 ⑤避難所運営

指標5 根拠（エビデンス）に基づいた取組みを行っている

安全診断（第3章を参照）の結果、本校の重点課題を以下のようにまとめました。これらの課題に対して、根拠に基づいた取組みを進めています。

図表3-35（再掲）

状 況	課 題	取組み
保健室来室者データから】 ○体育の授業、運動会（練習含む）でのケガが多い ○休み時間の不注意によるケガが多い ○部活動のケガが多い 【医療機関にかかった生徒から】 ○体育でのケガが多い ○運動部活動でのケガが多い ○部活動のケガは治療を要することが多い ○接触プレーでのケガが目立つ	運動中【体育・部活動等】でのケガ 休み時間【不注意等による】	部活動における安全の向上 《取組 応急手当の記録 《取組 の実施 応急救置講習会の実施 《取組 健康生活講演会の実施 《取組
【交通事故発生状況】 過去3年間の交通事故は3件（すべて自転車乗車中） 過去3年間の登下校時の交通事故はゼロ 【生徒による安全意識調査】 ○横に広がって歩く生徒がやや多い ○横断歩道以外の場所で横断する生徒がいる ○自転車で外出するとき、周囲の安全に気を配らない生徒がいる 【教師・保護者から見た実態】 ○横に広がって歩く生徒が多い ○道路の両端を並列歩行している ○交通ルールを守らずに、自転車を運転する生徒がいる	交通ルールの遵守と安全への気配り 周囲に配慮した自転車の乗り方（マナーの向上）	交通事故を減らす 《取組 自転車乗車中の事故を減らす 《取組 交通ルール・マナーを守り危険を回避する力を身につける 《取組

この表は、二中からの返事を
まっけて翻訳へ

【生徒の実態から】 ○携帯電話の所持率は３５％ ○携帯電話、インターネットによるネットトラブルがある ○いじめがある ○コミュニケーションの苦手な生徒がいる 【アンケートの結果から】 ○不登校生徒（３０日以上欠席者）が数名いる ○ネットトラブルが存在している	《課題》 自他を思いやる心や態度 いじめが起きない環境	インターネットの危険を知り安全に使用する 《取組 コミュニケーション能力を高める 《取組 不登校生徒の減少を目指す 《取組
---	--	---

これらの重点課題について、根拠に基づいた取組みを展開するため、既存の取組みを改善するとともに（指標３で示した取組みのうち「変更」を参照）、以下のように新たな取組みを進めています。

ケガの削減

いじめ撲滅

交通安全

その他（自然災害）

① 取組名・指標	秩父第二中学校区のAEDマップの作成（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・保護者・教職員・地域	
担 当 者	養護教諭（保健委員会）	
内 容	秩父第二中学校区のAEDマップを作成して、地域にある場所を確認する。	
成 果	地域のAEDがある場所に実際に行き、確認をすることができた。	
② 取組名・指標	運動の健康チェックカードの作成（毎日）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	体育教師・各部活動担当・部活動外部指導者	
内 容	睡眠・食事・排便・体調・運動量・体温などの健康チェックの実施	
成 果	I S Sの取組が始まり、より具体的な項目を増やし、自分の健康状態を確認し、部活動を始めることができた。	
③ 取組名・指標	部活動の健康観察（毎日）	新規・継続・変更・縮小
対 象	各部活動	
担 当 者	各部顧問・各部部長	
内 容	健康状況の把握をし、問題がある場合は部活の軽減・見学等の対応をする。	
成 果	部活動開始・終了時の健康状態を把握することができた。	
④ 取組名・指標	部活動指針の作成（年1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	各部活動	
担 当 者	各部活動顧問・教職員	
内 容	部活動の充実のため安全ポイント・練習や競技会に内在する危険因子・事故防止のための安全対策等を踏まえた部活動の運営をする。	
成 果	事故防止のための安全管理を勧めることができた。	

⑤ 取組名・指標	部活動安全点検（月1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	各部活動	
担 当 者	各部顧問・生徒 I S S 委員会（各部部長）	
内 容	毎月、各部で危険箇所の点検を行い事故防止につなげる。	
成 果	生徒自ら行うことにより、安全に対する意識の向上につなげることができた。	
⑥ 取組名・指標	トレーニングプログラム講習会の実施（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	大東文化大学 陸上競技部女子長距離監督 外園隆先生	
内 容	ケガをしないための正しいトレーニング方法とケガの処置の講習会	
成 果	準備運動（ストレッチ＝ケガ予防）とクールダウンの重要性を生徒に指導することができた。	
⑦ 取組名・指標	健康生活講演会実施（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	教職員・1 学年生徒	
担 当 者	日本体育大学 体育学部 教授 野井真吾先生	
内 容	二中生の元気をチャージ・ぐっすり睡眠のための入浴生活の講演会の実施	
成 果	元気の源の「セロトニン」を作るための理想の生活リズムについて学ぶことができた。	
⑧ 取組名・指標	ウォーミングアップ・クールダウンの実践（毎日）	新規・継続・変更・縮小
対 象	生徒	
担 当 者	各部活動顧問・外部指導者	
内 容	活動前の十分なウォーミングアップと活動後のクールダウンを十分に行う。	
成 果	部活動のケガ防止や自分の体の状態が把握できた。	
⑨ 取組名・指標	部活動中・事故発生時の校内体制の作成（通年）	新規・継続・変更・縮小
対 象	教職員・部活動外部指導者	
担 当 者	管理職・養護教諭	
内 容	部活動中の事故発生時のマニュアルにそって、対応をする。	
成 果	休日や練習試合などで校外に出るときの対応も含めたマニュアルができた。	

⑩ 取組名・指標	運動会でのケガ予防	新規・継続・ 変更 ・縮小
対 象	生徒	
担 当 者	体育教師 教職員	
内 容	運動会でケガの多い種目については、内容の見直しと競技人数の見直しをした。	
成 果	競技内容・人数内容を見直した結果ケガが少なくなった。	

⑪ 取組名・指標	いじめ撲滅に関する標語募集（新規）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	人権担当	
内 容	全生徒がいじめ撲滅に関する標語を考え提出し、校内に掲示する。	
成 果	いじめは絶対にゆるさないという気持ちを育て、人間関係の向上につなげることができた。	

⑫ 取組名・指標	スマホ使用のルール作り （新規）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	生徒会本部役員	
内 容	スマホを使用するときのルール作りを行う。	
成 果	スマホの便利な点、危険な点を確認し、様々な問題に巻き込まれないための環境をつくることができた。	

⑬ 取組名・指標	「いじめ撲滅宣言」（新規）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	生徒会本部役員	
内 容	平成26年度前期生徒総会にて生徒会本部役員が提案する。	
成 果	生徒一人一人が、いじめのない学校生活を意識することができた。	

⑭ 取組名・指標	交通安全教室（年1回）	新規 ・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・教職員	
担 当 者	安全担当	
内 容	スクアードストレイト技法による自転車安全教室を実施した。	
成 果	自動車と自転車が衝突する場面を見ることで緊張感を持ち、安全に関する意識の向上を図ることができた。	

⑮ 取組名・指標	生徒ISS委員会による登下校安全の呼びかけ (週1回)	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・地域の小学生	
担 当 者	生徒ISS委員会	
内 容	学校付近の交差点で、生徒が登校中の生徒に対し安全を呼びかける。	
成 果	自他ともに、交通ルールを守り、安全な登下校を送ることができた。	
⑯ 取組名・指標	地域街歩き点検ワークショップ（年1回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	生徒・保護者	
担 当 者	秩父市セーフコミュニティ推進協議会	
内 容	子どもや高齢者の移動の安全性に関する現地調査と点検マップの作成	
成 果	学区内を実際に歩いて調査することにより、危険箇所を把握できた。	
⑰ 取組名・指標	いじめ撲滅等の標語の募集と掲示（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	生徒会本部役員	
内 容	いじめ撲滅・交通事故防止・ケガ予防の標語の募集と掲示を実施	
成 果	優秀な作品を昇降口に掲示し、いじめに対する意識を高めることができた。	
⑱ 取組名・指標	ISSだよりの発行（月2回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒・保護者・地域	
担 当 者	管理職・ISS研究主任・養護教諭	
内 容	生徒ISS委員会の報告や、実施状況・統計等を作成・配布	
成 果	それぞれの活動内容や改善されたことなどを広く周知することができた。	
⑲ 取組名・指標	PTA教育講演会「スマホの利用」（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	保護者・教職員・地域	
担 当 者	PTA財政文化委員会	
内 容	携帯電話・スマホの利用の危険を確認し合う。	
成 果	利用についての危険性を知り、その対処法や予防策を学んだ。	

②① 取組名・指標	ISS集会（年間10回）	新規・継続・変更・縮小
対 象	全校生徒	
担 当 者	生徒ISS委員会	
内 容	登下校を含め校内生活の安心・安全を呼びかける集会を実施する。	
成 果	校内の問題点を発表し、安心・安全な学校生活づくりにつなげることができた。	
②② 取組名・指標	認証校、認証着手校との連携（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	朋有小学校・清水小学校・睦合中学校・宮内中学校・中丸中学校	
担 当 者	ISS研究推進委員会	
内 容	先進校の取組視察	
成 果	各校の取組を学び、参考にして自校の取組に活かした。	
②③ 取組名・指標	校区内小学校との連携（新規）	新規・継続・変更・縮小
対 象	教職員	
担 当 者	教育委員会 教職員	
内 容	小学校との合同研修会	
成 果	「ケータイ利用問題の考え方と対策」についての講義を受け、ケータイのあり方について共通理解を図った。	

《指標5の取組み事例》

本校のケガの大きな傾向は、部活動（スポーツ）中や体育の時間（運動会含む）のものでした。そのため、部活動中のケガをより深く分析し、その予防対策を立てました。

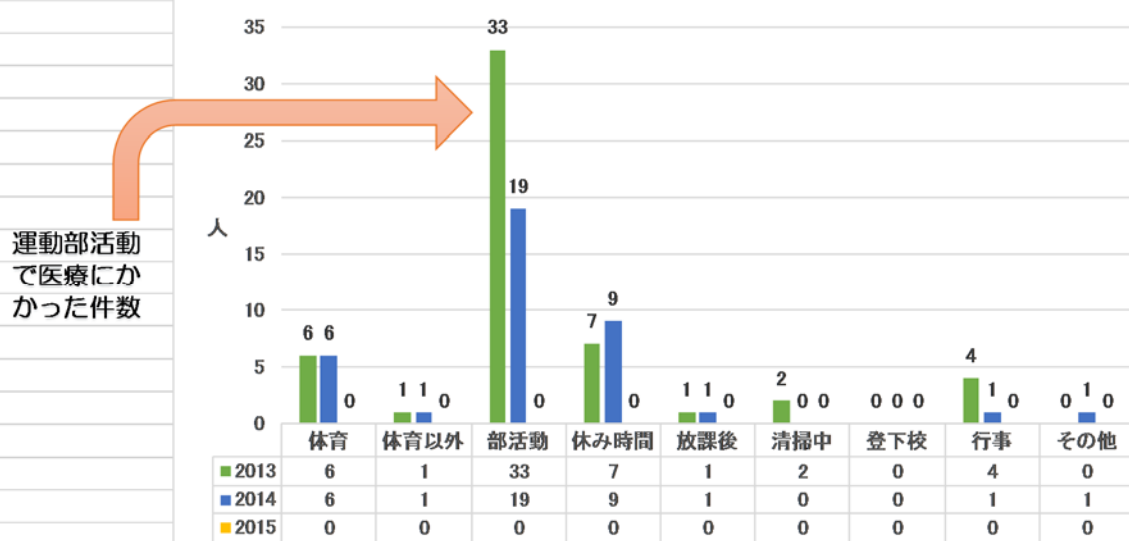
① 運動部活動のケガの予防対策

運動部活動で医療にかかった件数(2012 年～2014 年)

	バスケットボール	バレーボール	剣道	卓球	野球	サッカー	テニス	陸上
2012年部活動人数	35	21	18	40	30	25	74	50
2012年ケガの人数	9	7	3	1	8	4	2	1
%	25.7	33.3	16.7	2.5	26.7	16.0	2.7	2.0
2013年部活動人数	34	19	19	44	29	28	70	45
2013年ケガの人数	14	2	1	1	6	4	2	3
%	41.1	10.5	5.3	2.3	20.7	14.3	2.9	6.7
2014年部活動人数	27	12	22	43	24	22	66	43
2014年ケガの人数	5	1	2	0	2	5	4	0
%	18.5	8.3	9.1	0.0	8.3	22.7	6.1	0.0

ケガの活動別発生件数の推移

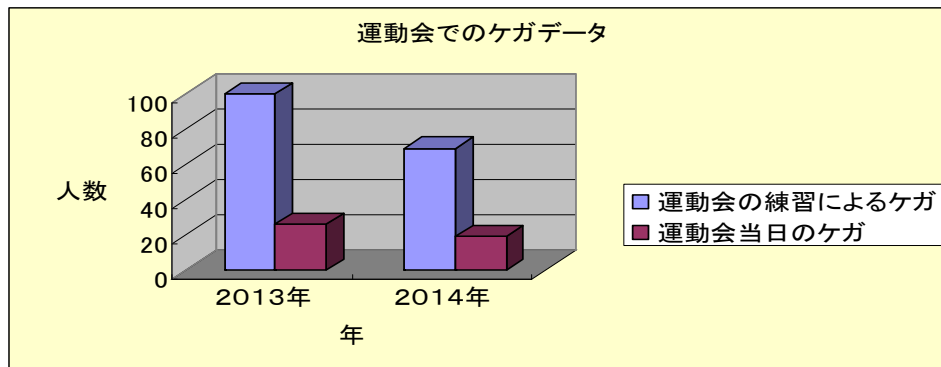
図表4-5-3



② 運動会でのケガ予防対策

図表 4-5-6

	2013年	2014年
運動会の練習によるケガ（人）	100	69
運動会当日のケガ（人）	26	19



組体操は、技の見直しや、人数の変更、一つ一つの動作をゆっくり行い、危険度を減らしました。



組体操の注意

- ① 体をきたえます。体力をつけます。技術を身につけます。
- ② 「美しい姿勢」を身につけます。
- ③ 自分や相手の体の重心がどこにあるかを体で感じられるようにします。
- ④ 協力する気持ちを育てます。心を一つにする練習でもあります。
- ⑤ 安全な身のこなし方を身につけます。
- ⑥ 暑かったり、きつかったり、苦難に打ち勝つ、気持ちを育てます。

➡ ①危険を予知し、1つ1つの動作を慎重に行います。



学年種目は、集団種目で特にケガが多いため、人数を少なくして、実施するようにしました。

事故防止の徹底

(指標5－④⑨)

◇安全指導の充実

- ・自己管理能力の徹底
- ・危険予測、危機回避能力の育成



◇安全管理の徹底

- ・緊急時の連絡体制の確立
- ・生徒の健康管理
- ・スポーツ障害の予防
- ・休養日の設定
- ・適切な練習時間、練習量の設定
- ・安全にできる服装、用具の確認
- ・施設設備の整理整頓
- ・定期点検の実施
- ・練習場の確保
- ・衛生面の配慮



体育委員会によるケガ予防の発表

運動のウォーミングアップとクールダウン

(指標5ー⑧)

運動前後を含む運動中の事故を未然に防ぐため、また、運動能力を十分に発揮するために、事前にウォーミングアップが必要です。

図表4ー5ー7

体温の上昇	- 運動することで体温や筋肉の温度が上昇し、柔軟性がよくなる。 - 関節の持つ可動域をその人のもつ最大限まで高める。 
適応性の高揚	- ウォーミングアップを行わずに高いレベルの運動をすると心肺機能や筋肉等に大きなストレスがかかる。  - すぐに対応できないため、ケガの原因になりやすく、これを予防する効果がある。
心理的な準備	- ウォーミングアップを行うことで、アドレナリン量が多くなり、中枢神経を刺激して、運動に対する心理的な準備が整う。 - 激しい運動の後には、直ちに安静にするのではなく、しばらく軽い運動を行い、高まっていた機能を徐々に安静状態（クールダウン）に導いていく必要がある。 
亢進している機能を安静状態へ	① 1~2 分後の軽いジョギングか歩行 ② 下肢の柔軟体操とストレッチング ③ 下肢筋のマッサージ等  

二中学生の携帯電話等の利用について

(指標 5-⑫)

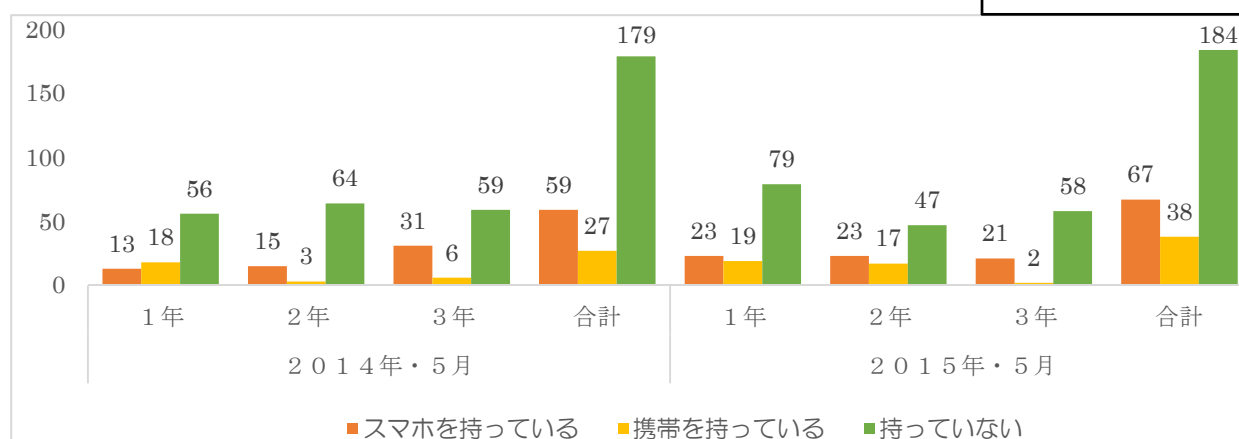
本校の一部の生徒は、メールや無料通話アプリを長時間利用しています。昼と夜の生活が逆転してしまう可能性があるということが課題です。グループトークを始めると、なかなか抜け出すことができなくなり、仲間はすれにされることを恐れ、何時間も返事を繰り返すことになります。この習慣が続くと朝起きられず、生活リズムが崩れてしまことにつながります。

秩父第二中学校生活アンケート結果

図表 4-5-8

	2014年・5月				2015年・5月			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
スマホを持っている	13	15	31	59	23	23	21	67
携帯を持っている	18	3	6	27	19	17	2	38
持っていない	56	64	59	179	79	47	58	184
フィルタリングをしている	23	12	23	58	23	28	17	68
していない	10	7	14	31	22	13	6	41
携帯電話の利用時間 30分～1時間	6	4	10	20	5	15	12	32
(1日) 1時間を超える	7	9	10	26	7	8	7	22
ゲーム機等でメールやインターネットを行う時間 30分～1時間	12	7	28	47	13	11	14	38
(1日) 1時間を超える	9	16	9	34	14	12	15	41
テレビの視聴時間 2～3時間	18	15	11	44	20	14	15	49
(1日) 3時間を超える	10	23	4	37	22	7	12	41

図表 4-5-9



携帯・スマホの所持率は全国の平均に比べるとかなり低く、約 35%です。しかし、所持者の半数以上が1時間位（1時間を超える）使用をしています。また、3分の1はフィルタリングをかけていない状況です。携帯やスマホの利用により、いじめに発展するケースもありました。ゲーム機等によるインターネットやメールの使用時間、テレビの視聴時間も多く、就寝時刻が遅くなり学校生活にも支障をきたしています。

二中学生の携帯電話・スマートホンの利用について（指標５－⑫）

学校では所持することも勧めません。プロフや掲示板など SNS でのトラブルや出会い系、架空請求などのサイバー犯罪に巻き込まれるケースも全国では増えてきています。本校でも、携帯電話、スマートホンによるトラブルが起きています。さらに、夜遅くまで利用していると、生活習慣が乱れ、学習への取組が疎かになります。

携帯電話やスマートホンなどの所持については、保護者の責任で行っていますが、家族での約束ごとを作り節度をもって利用してほしいと思います。学校としても、ケータイ、スマホのメリットとデメリットを伝えるとともに、ケータイ、スマホを使用する時のルールを考え、生徒会本部が集約し、下のようによまとめました。

図表４－５－１０

二中学生のケータイ、スマホのルール

生徒 ISS 委員会

時間・管理

- ・夜 9 時以降は電源をきる。
- ・勉強中は携帯電話・スマホを触らない。
- ・使用しないときは親に預ける。
- ・フィルタリングをかける。
- ・自転車に乗りながら、ケータイやスマホを使用しない。



モラル

- ・悪口やうわさ話、個人情報などを書き込まない。
- ・相手の立場になって考え、撮影した画像などは勝手に使わない。
- ・本当に大切なことは、ケータイやスマホを通してではなく会って伝える。

お金

- ・有料サイトなど使う場合は保護者の了解を得る。
- ・毎月の利用料金明細書を保護者と確認する。

いじめ撲滅宣言（指標５－⑬）

対 象：全生徒

担当者：生徒会本部・特別活動担当

内 容

各学級から出た意見をもとに、生徒会本部で、いじめ撲滅宣言として提案し、生徒総会で採択されました。いじめ防止に対する意識を高めることができました。



ISS 集会によるいじめ撲滅宣言の発表

いじめ撲滅宣言

図表４－５－１１

生徒 I S S 委員会

１ いじめを未然に防ぐために

もし自分だったらと相手の気持ちを考えて発言、行動しましょう。
いじめをさせないように、周りに目を配り生活をしていきましょう。

２ もしいじめが起こったら

（１） いじめている人へ

相手がいじめだと思ったら、それはいじめとして認知されます。いじめは犯罪です。すぐに止め、謝罪しましょう。

自分の行動や言動を振り返り二度と繰り返さないようにしましょう。

（２） いじめを受けている人へ

すぐに「やめて」と相手に言いましょう。

我慢せず大人に相談しましょう。

（３） いじめをはやし立てている人へ

はやし立てる人もいじめをしていることと変わりありません。はやし立てるのをやめ、すぐにいじめを止（と）めましょう。

（４） いじめを見ている人へ

見て見ぬふりをするのは止めましょう。

勇気を出して、先生や保護者など大人に相談しましょう。

以上のことを守り、いじめのない秩父第二中学校をつくることを誓います。
そして、秩父第二中学校からいじめを撲滅することを宣言します。

地域安全点検の実施（指標5－⑬）

登下校時や休日の学区内での事故を予防するため、新たに地域の方々と一緒に「地域安全点検」を実施することにしました。危険箇所の情報を共有するため、安全点検マップも作成しました。

目的：学区内の危険箇所の情報の共有

内容：学区内を徒歩で巡回し、点検を実施しました。点検後には、ワークショップ形式で意見交換しました。また、撮影した写真や危険情報をマップにして校内に掲示することで、参加できなかった生徒も情報を共有しています。

参加者：教員、保護者、地域の方々

成果：学区内の危険箇所に関する情報を共有することで、事故予防の意識を啓発することにつながりました。

今後の予定：地域安全点検を継続的に実施し、意識の啓発だけでなく、環境も改善していきます。



○気づいた点は、写真やメモで記録



○参加者全員で意見交換



○情報をマップにして危険情報を共有

図表4－5－12

指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

より安全な学校に向けて、「体」と「心」のケガを記録し、課題の抽出と取り組み成果を確認するため、下記の情報を収集・分析しています。

図表4-6-1

分類	ケガの種類	記録方法	頻度
A 体のケガ 	① 軽微なものを含むケガ (保健室データ)	保健室においてケガの記録のシートを使い、ケガや事故の情報収集をして統計処理をしています。(指標3-③)	毎月
	② 通院を要するケガ (災害共済給付データ) 	- 医療機関での治療が必要なケガについて、学校管理下における生徒の災害医療費請求のため、日本スポーツ振興センターへ提出をする記録を秩父市に提出しています。(指標3-②) - 通院をしたケガについては、生徒が振り返りカードに記入をして、どうしたら、ケガを防げたのか考える資料とします。(指標3-⑩)	毎月 毎回
	③ 上記以外の情報 (校外でのケガ)	- 安全に関する意識調査(指標3-②⑥) - 通学路・危険調査(指標5-⑩⑥) - 生徒の交通事故の把握(警察より連絡)	年1回 年1回 随時
B 心のケガ 	④ 心の不調 (保健室来室の記録) (相談室来室の記録)	保健室・相談室の来室状況をまとめ、(ケガ以外)生徒指導部会へ統計・分析を提出し話し合いを持つ。(指標3-⑬)	毎週
	⑤ いじめの発生件数	- 毎週、企画委員会・生徒指導部会で各学年・各担当の生徒の状況を出し対応を話し合い、その結果を取りまとめます。(指標3-⑬) - いじめアンケートの実施「生活アンケート」アンケート結果をもとに教育相談を実施(指標3-⑱) - さわやか相談員さんとの面談(スリッシュのアンケートの実施をして、1人1人全校実施)(指標3-⑱ 指標3-⑲)	毎週 学期2回 年1回

1 軽微なものを含むケガの記録 (A-①)

記録シートを使い、「発生時間」「発生場所」「ケガ別」「ケガの部位」「手当での対応」について個別に記録をしています。月別に出した統計を保健委員会で、考察しておたよりなどを通して啓発しています。

2 通院を要するケガの記録収集(「災害共済データ」より) (A-②)

学校管理下のケガで、5000 円以上の治療費を要するようなケガについては、日本スポーツ振興センターに報告します。その記録「災害救済給付データ」を活用しています。

「医療にかかったケガの振り返りカード」の記入をして、どうしたらケガをしなかったのか考えて記入をします。

3 それ以外の情報 (A-③)

校外のケガについては、通学路の危険箇所のアンケート調査、通学時におけるヒヤリ・ハット体験を調査し、それをもとに二中学区の「ひやりマップ」の作成をして活用しました。

また、「自転車安全 5 則」をもとに自転車の安全な乗り方、生徒の交通事故の把握をしました。

- ①通学路の危険箇所
- ②通学時におけるヒヤリ・ハット体験
- ③自転車の安全な乗り方
- ④生徒の交通事故の把握

秩父第二中学区の
ひやりマップの作成をして活用しました。



4 心のケガ（保健室・相談室の来室記録状況のまとめ）（ B-④ ）

保健室来室の記録

	日（月）	日（火）	日（水）	日（木）	日（金）
1 時間目					
2 時間目					

内科的対応と不定愁訴の生徒の対応を、記録して、毎週の生徒指導部会で、心に課題をかかえる生徒の早期対応に役立てています。



相談室来室の記録

月 日	曜	クラス	氏名	時間	対応
4 / 11	月	1-1	〇〇△△子	時 分	

相談に来室する生徒の対応を記録して、毎週の生徒指導部会で、話しています。



5 いじめの発生件数（ B-⑤ ）

生活アンケート（一部抜粋）

毎月「生活アンケート」を実施し、生徒の心の状態を把握し、生活状況・学習状況の調査をしています。集計をして

①生徒指導部会で検討・考察（ケース会議の実施）

②各担任に返して学年内で話し合い、学級経営・個別指導 に行かしています。

Q・学校内外で、いじめに関わったことがありますか？

- A いじめたことがある
- B いじめられたことがある
- C 他の人のいじめを見たことがある
- D いじめに関わったことがある

回答欄の記入があった生徒については、担任が確認をします。

Q・困っていること、悩んでいることはありませんか？

- A ある
- B あったけれど解決している
- C ない

A・Bの回答については、担任が確認をします。

いじめにつながる事案の
早期発見・早期対応を心がけます

平成26年度 ケガの状況 日本スポーツ振興センター申請の情報【通院を要するケガ】（A-②） （以下の情報を提出しているため、これらの情報を分析しています。）										部活動中のケガ					
No.	発生日	年	月	日	曜日	学年	性別	発生日時刻	場所	活動理由	教科・部活動等	負傷部位	負傷状況	病院名	図表4-6-2
1	26.4.15	26	4	15	火	2	女	16:20	運動場	テニス	部活動	腰部	腰椎分離症	高橋整形外科	
2	26.4.22	26	4	22	火	2	女	11:55	体育館上	補強運動	体育	腰骨	挫傷	たかはし整形	
3	26.5.12	26	5	12	月	3	男	13:30	廊下	遊び	昼休み	顔部	眼球	打撲	並木眼科医院
4	26.5.19	26	5	19	月	3	女	16:00	体育館下	剣道	部活動	手部	指		
5	26.5.24	26	5	24	土	1	男	10:00	運動場	野球	部活動	手部			
6	26.5.27	26	5	27	火	2	男	13:30	廊下	遊び	休み時間	環指DIP関節（右）			
7	26.5.29	26	5	29	木	2	男	14:30	廊下	移動中	休み時間	足関節（左）			
8	26.6.1	26	6	1	日	3	男	14:00	運動場	野球	部活動	下肢	下腿部右	挫傷	秩父市立病院
9	26.6.9	26	6	9	月	2				体育		頭部	打撲	秩父病院	
10	26.6.9	26	6	9	月	2				修学旅行		足指部	左親指	打撲	京都市左京区整形外科
11	26.6.10	26	6	10	月	2				休み時間		手部	関節	捻挫	岡部医院
12	26.6.30	26	6	30	月	2				休み時間		足裏	異物		健生堂
13	26.7.7	26	7	7	月	2				休み時間		顔部	目	角膜エロジオン	並木眼科医院
14	26.7.8	26	7	8	月	2				部活動		顔部	歯	脱臼	秩父臨床デンタルクリニック
15	26.7.23	26	7	23	月	2				部活動		手部	桡骨尺骨	骨折	たかはし整形
16	26.7.28	26	7	28	月	2				部活動		下肢	左関節	捻挫	花の木接骨院
17	26.8.1	26	8	1	月	2				部活動		下肢	膝部	捻挫	関根接骨院
18	26.8.26	26	8	26	火	1	男	14:00	体育館上	運動会練習	体育	足指部	左拇趾	捻挫	やくしん接骨

データ化が
できています。

データ化されたものを、
月別にして掲示をします。

データ化が
できています。

データ化されたものを、
月別にして掲示をします。



医療にかかったケガの振り返りカード

(A-① A-②)

図表 4-6-3

秩父市立秩父第二中学校・保健室

年 組 氏名	平成 年 月 日 ()
時 間	登下校中 授業中 () 休憩時間中 () 清掃中 放課後 部活動中 () 学校行事 () その他 ()
場 所	AM・PM () 時 分頃) 教室 特別教室 () 廊下 体育館 校庭 通学路 その他 ()
受傷状況 【原因】	
受傷部位 ○をつける	部 位 頭 顔 () 手 () からだ () 足 () その他 ()
症 状	骨折 捻挫 打撲 腫れ 痛み 出血 切り傷 歯がぐらついた その他 ()
医療機関	病院名 () () () 薬局 ・行った ・行っていない
ケガの 振り返り	



部 位

頭 顔 () 手 ()
 からだ () 足 ()
 その他 ()



ケガの振り返りをして、
 どうしたらケガをしなかつ
 たのか考えて記入します。



保健室利用の流れ



1	2	3	4	5
ケ ガ ↓ 保健室来室 〈手当〉	ケガの記録 〈記入〉	→医療機関 〈状況によって〉	保健室 ① 医療機関手続き 〈用紙〉 ② 振り返りカード 〈本人〉	ケガの状況 ・担任確認 ・部活顧問確認 ・養護教諭確認

いじめ実態のアンケート (B-⑤)

図表4-6-4

学校内でいじめに関わったことがありますか。

- | | |
|---|-----------------|
| A | いじめたことがある |
| B | いじめられたことがある |
| C | 他の人のいじめを見たことがある |
| D | 関わったことも見たこともない |

担任と面談をして、生徒の話を聞く。
場合によっては関係機関との連携をもつ。

いじめ問題への組織的な取組を推進するため、機動的な「いじめ対策委員会」を設置し、そのチームを中心として、教職員で共通理解を図り、学校全体で総合的ないじめ対策を推進していく。また、組織が有効に機能しているか、定期的に点検・評価を行い、実態に即した組織として機能しているのかを検証していく。

図表4-6-5

学校生活についてのアンケート〈保護者用〉

() 内は、具体的ないじめの事項を記入	はい	いいえ	わからない
うちの子どもは学校で、他の子どもから () のようなことをされた			
うちの子どもは学校で、他の子どもに () のようなことをした			
うちの子どもは学校で、() のようことを見たという話を聞いたことがある			
うちの子どものまわりで() のようことがあると他の保護者や地域の方から聞いた ことがある			
家庭で() のよう問題について子どもと話すことがある			

携帯電話アンケート

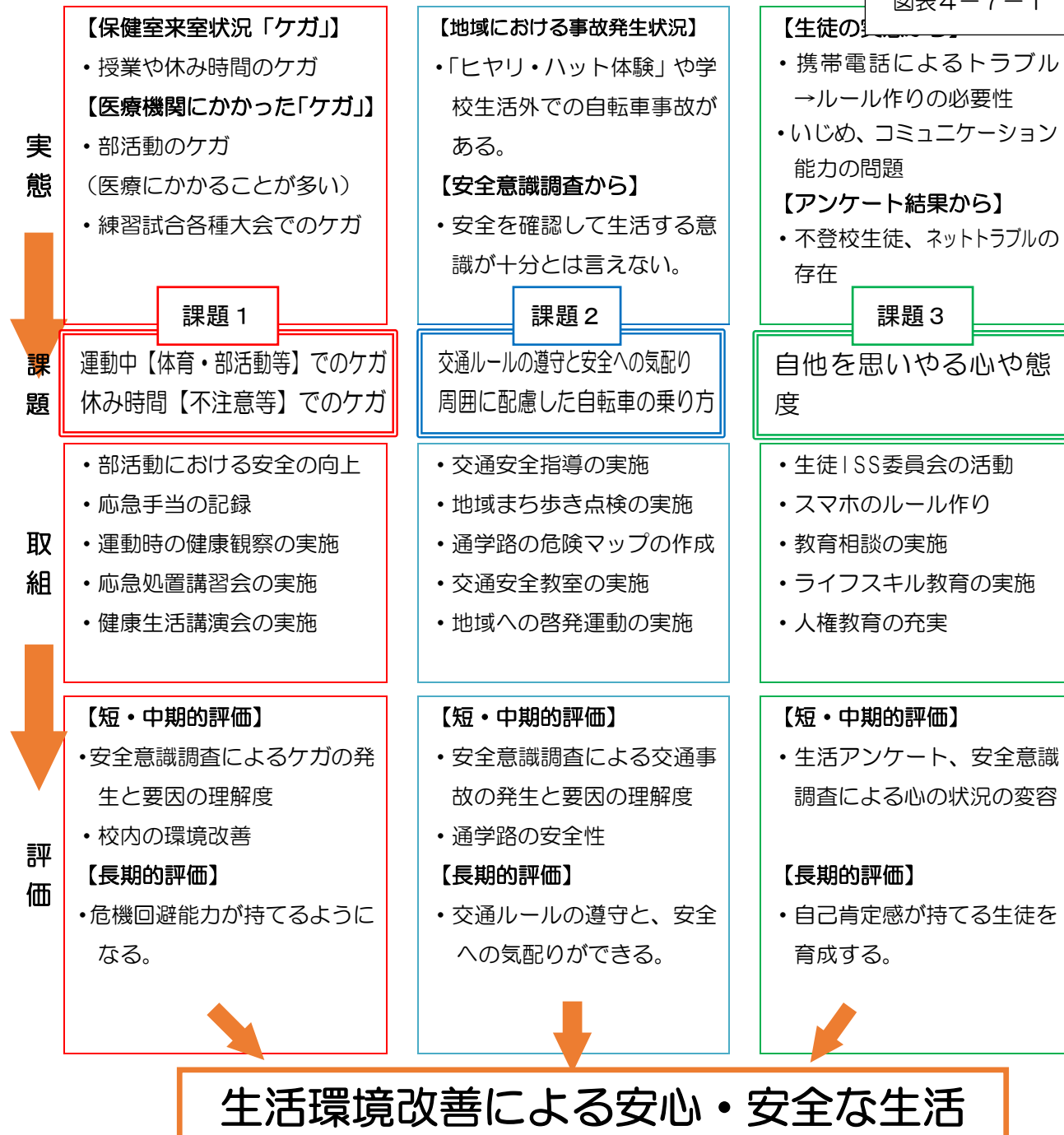
この1年間、身近なところでメールやブログなどでいじめがあった	はい	いいえ
この1年間、あなたがメールやブログなどでいじめられましたか	はい	いいえ
パソコンやゲーム機で1日平均どれくらいインターネットをしていますか	____ 時間 ____ 分	
自分所有の携帯電話・スマホを持っていますか	はい	いいえ
いつ頃から持ち始めましたか	小・中 ____ 年生	
家族で携帯利用のルールを決めていますか	いる	いない

「ネット上のいじめ」への対応 → ネット上で誹謗中傷が行われた場合、いじめの兆候をいち早く把握し、迅速な対応を行うとともに情報モラルの指導や保護者への啓発活動を行い、「ネット上のいじめ」を許さない学校づくりを家庭や地域とともに推進していく。また誹謗・中傷などがあった場合は、直ぐに削除要請などの手続きを行う。学校全体で取り組み、警察などの専門機関と連携して対応をしていく。

指標7 学校の安全に関する方針、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある

本校では、校内・校外での身体的ケガと精神的ケガにおいて次のように取組成果の指標を設定しています。

図表4-7-1



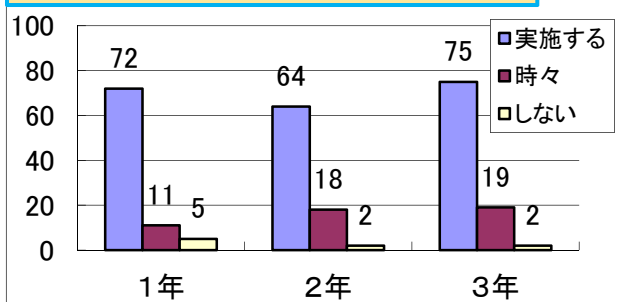
各課題については、指標3～5で述べた取組を展開しました。それらの取組については、定期的にその成果を確認します。まず、取組による「意識・態度の変容」をみるための「短期・中期」の評価を行い、意識や態度などの変容や環境の改善によってケガの発生件数の変化などを確認する「長期評価」を設定しています。

課題1 運動中【体育・部活動等】のケガ・休み時間【不注意等による】のケガ

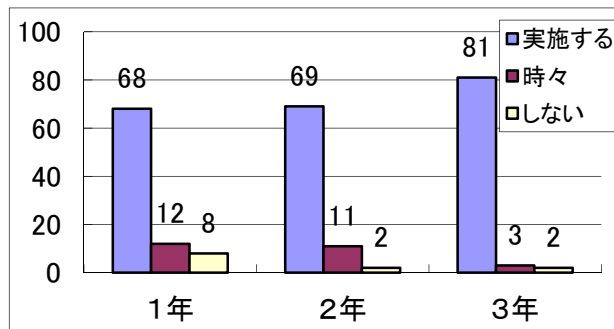
《短・中期的評価》

2014年4月 意識調査

◎部活動での準備・整理運動実施



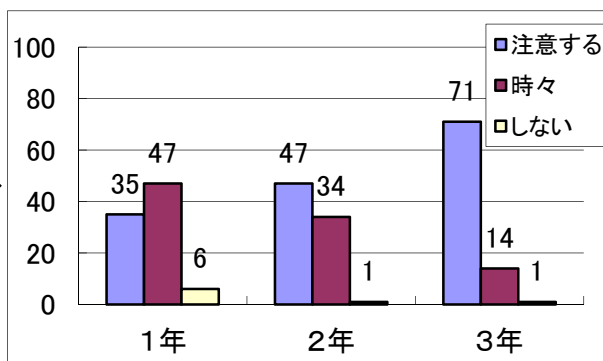
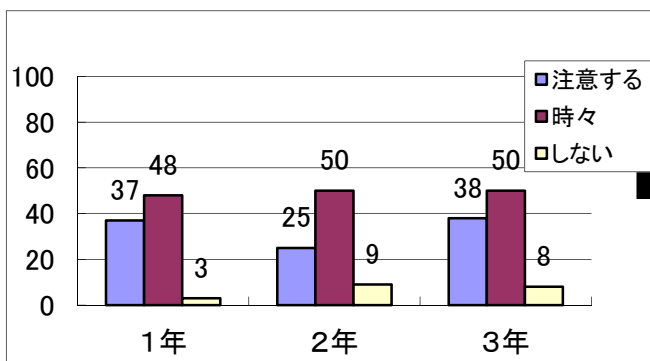
2015年3月 意識調査



《実態》不十分な生徒数 57名(22%) → 38名(15%)

【取組】部活動指針の策定 安全点検と部活動開始時の健康観察の実施

◎校内生活（廊下・階段）での注意



《実態》不十分な生徒数 168名(63%) → 103名(40%)

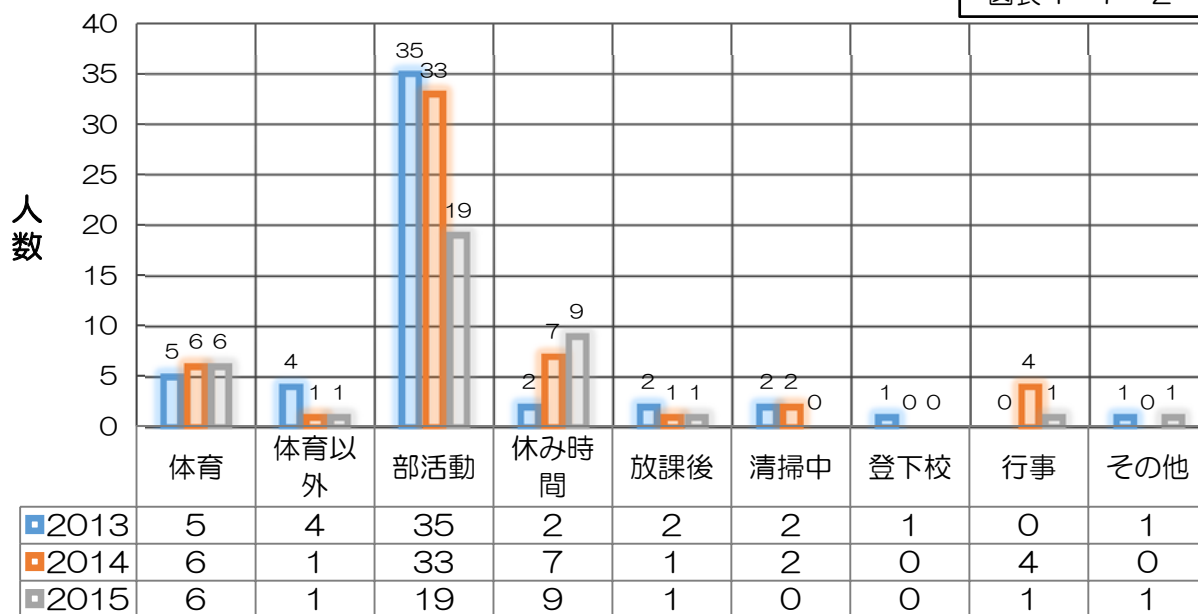
【取組】校内掲示物の充実 保護者全員による校内巡回

《長期的評価》

部活動の全体的なケガの発生件数は減少傾向にあり、ケガの発生件数の集計や分析、部活動安全点検や健康観察等の成果が表れているといえます。ケガの発生件数が減少しつつあります。意識の向上も高まっています。今後も継続的に施策に取り組んでいくことと、工夫や改善をしていく必要があります。また、休み時間中のケガの発生件数が増加しているため、休み時間の過ごし方について安全意識が高まるようにしていきたいと思えます。

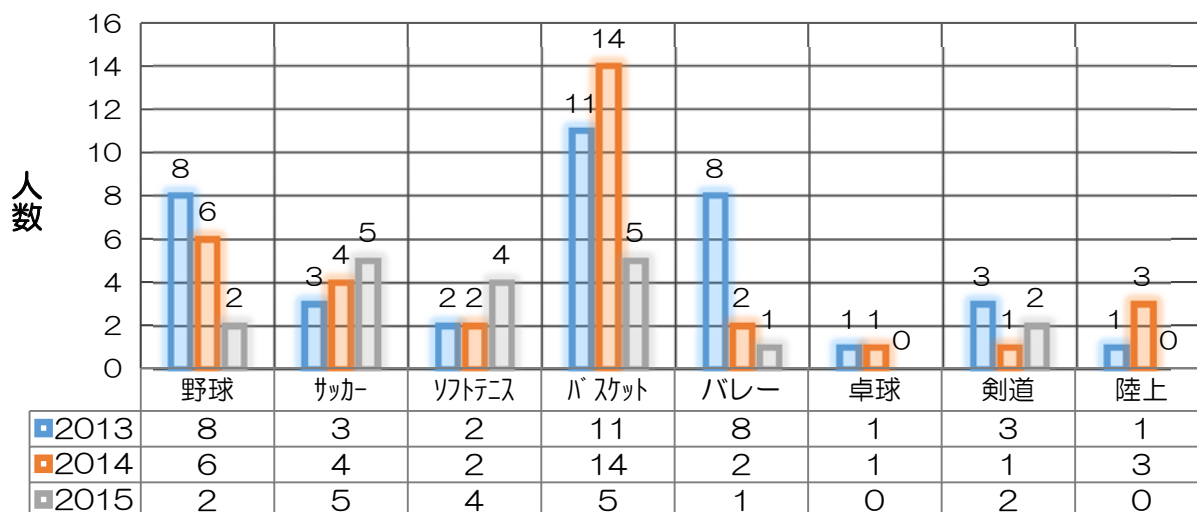
ケガの活動別発生件数の推移

図表4-7-2



部活動別ケガの発生件数の推移

図表4-7-3

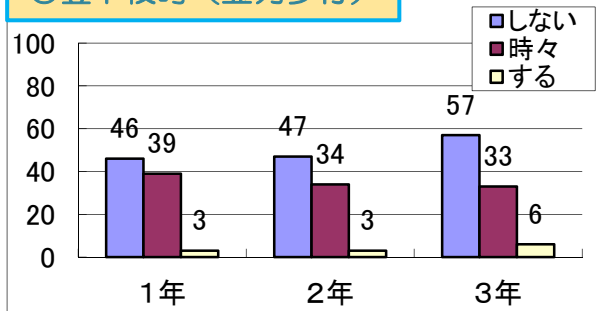


課題2 交通ルールの遵守と安全への気配り・周囲に配慮した自転車の乗り方

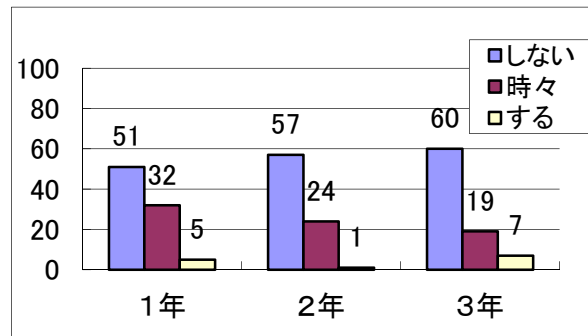
《短・中期的評価》

2014年4月 意識調査

◎登下校時（並列歩行）



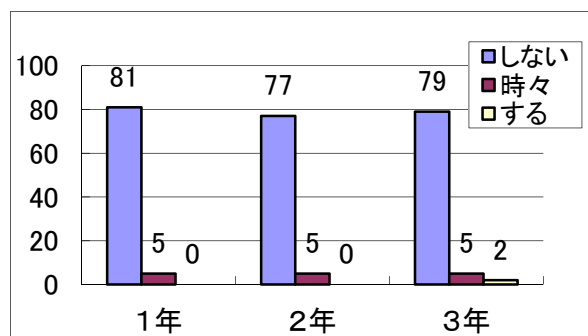
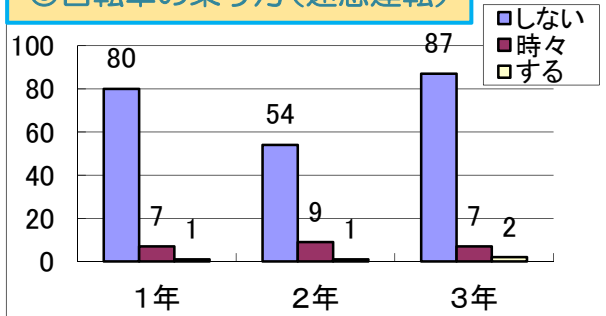
2015年3月 意識調査



《実態》 不十分な生徒数118名（46%）→88名（34%）

【取組】 登校安全指導 「ISSだより」等による啓発活動

◎自転車の乗り方（迷惑運転）



《実態》 不十分な生徒数27名（11%）→17名（7%）

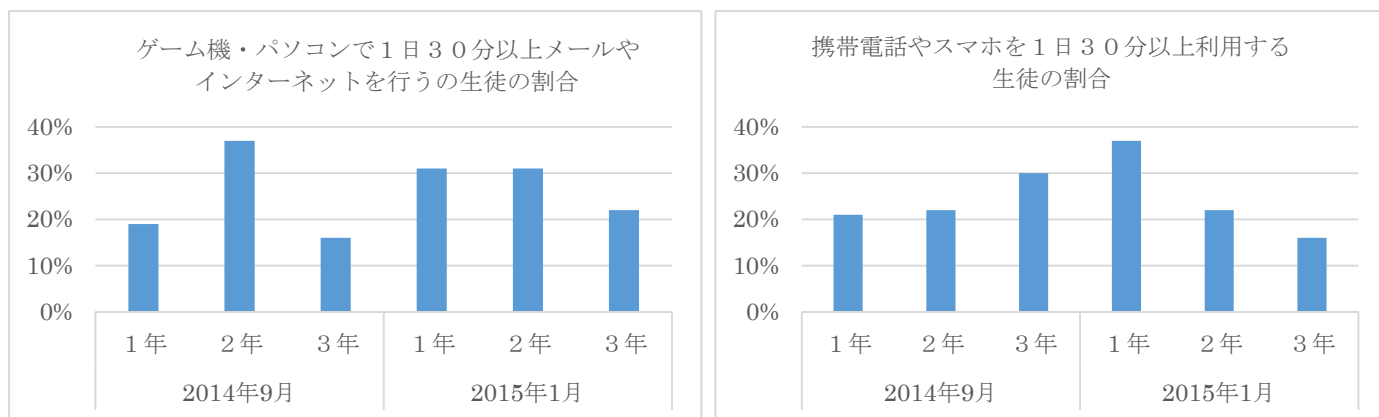
【取組】 自転車の安全点検（各学期1回） 交通安全教室（スケアードストレイト技法）

《長期的評価》

安全への気配りは高まる傾向にあり、交通安全指導や校外パトロール、交通安全教室、通学路の危険マップの作成、地域への啓発活動等の成果が表れていると言えます。登下校時における並列歩行する生徒もだいぶ減少してきてきました。しかし、横断歩道以外の場所で横断をしてしまう生徒や、自転車で外出する時、周囲の安全を確認しなかったり、自転車による迷惑運転をするなど交通ルールを守れない生徒がまだまだいるなど課題もあります。今後も引き続き取組を継続し、交通ルールの遵守と、安全への気配りができるようにしていきます。

課題3 自他を思いやる心や態度・いじめが起きない環境

《短・中期的評価》



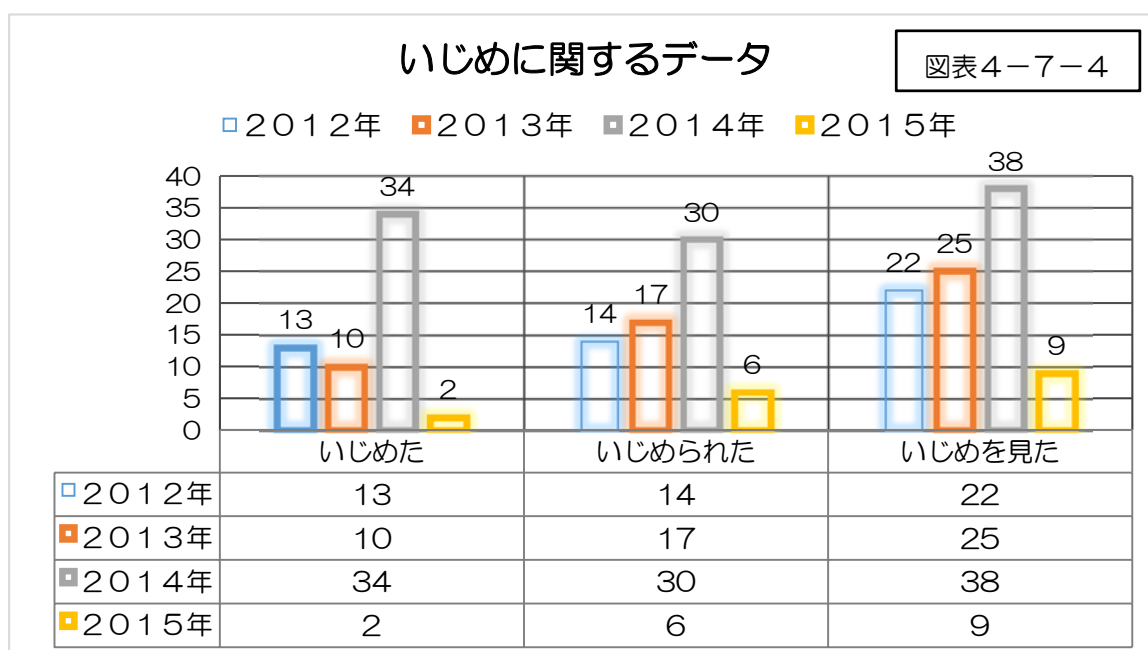
《実態》2014年9月から2015年1月に比べ、大きな増加は見られない
スマホ・メールに依存する生徒の増加は少ない

【取組】生徒 ISS 委員会によるスマホルールの作成・呼びかけ
生徒や保護者による個人の生活の振り返り

《長期的評価》

いじめの発件件数は、2012年から増加傾向にあります。しかし、2014年をピークとして、2015年（今年）になって減少してのスタートをきることができました。

しかし、心のケガについては特に重要な課題であり、集団生活におけるコミュニケーション能力の低下による「心のケガ」を負っている生徒、またネットトラブル等、課題もあります。三者面談の実施や生活アンケート、日々の生活記録ノートの点検、安全意識調査による心のケガの把握を多方面から生徒理解を図り、自己肯定感が持てる生徒の育成に努めたいと思います。



* 2015年のデータは、5月に行ったアンケート結果のみ記載

指標8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している

本校は、市内でともに ISS に取組んでいる花の木小学校や南小学校との連携をすすめるとともに、国内のセーフスクールのネットワークに積極的に参加しています。また、今後は国際的なネットワークにもとりこんでいきたいと考えています。

市 内

「秩父第二中学校区」の取り組みの中心として、秩父地域への情報発信はもとより、継続的な取り組みとして、国内外のネットワークに生徒とともに参加しています。

国 内

- | | | |
|-----------|-------|-----------------------|
| 2013. 7. | 認証校 | 東京都豊島区立朋友小学校視察 |
| 2013. 10. | 認証校 | 神奈川県厚木市立清水小学校視察 |
| 2014. 8. | | ISS研修会東日本セッション参加 |
| 2014. 10. | 認証着手校 | 神奈川県厚木市立睦合東中学校視察・意見交換 |
| 2014. 11. | 認証着手校 | 埼玉県北本市立宮内中学校視察・意見交換 |
| 2015. 3. | | 埼玉県北本市立宮内中学校本審査会参加 |
- 朋友小学校視察 清水小学校視察



宮内中学校視察



ISS研修会東日本セッション参加



国 外

今まで機会はありませんでしたが、今後機会をとらえて積極的に参加していきます。

第5章 取組みの成果と今後への課題

2013 年より 3 年間、インターナショナルセーフスクールの認証に向けて、生徒の実態調査、データの収集から、本校の課題を見だし、それぞれの部会に分かれて取組を進めてきました。外部評価（インターナショナルセーフスクール認証センター認証審査員による指導・助言）をいただきながら積極的な取組を展開してきました。それぞれの成果と今後の課題を踏まえ、さらに全国にインターナショナルセーフスクールの輪が広がっていくことを願っています。

図表 5 - 1

	校内のケガ	校外のケガ	心のケガ
取組・成果	- 部活動における安全の向上 - 応急手当の記録 - 運動時の健康観察の実施 - 応急処置講習会の実施 - 健康生活講演会の実施	- 交通安全指導の実施 - 地域まち歩き点検の実施 - 通学路の危険マップの作成 - 交通安全教室の実施 - 地域への啓発運動の実施	- 生徒 I S S 委員会の活動 - スマホのルール作り - 教育相談の実施 - ライフスキル教育の実施 - 人権教育の充実
	校内のケガの減少 - 生徒の活動定着（健康観察、安全点検等） - ケガの予防策の実施（準備運動、健康管理等）	交通安全に対する意識の向上 - ひやりマップの作成 - I S S 便り等による啓発活動の充実 - 安全に関する理解度の向上	問題把握の体制作りによる指導の充実 - スマホのルール作成 - いじめ撲滅宣言 - 相談できる体制強化
今後の課題	- 安全意識のさらなる向上 - ケガデータの公表と活用 - ケガ発生率の減少	- 学校、地域、保護者とのネットワーク強化 - 学区内の小学校との連携 - 交通事故の発生率の減少	- 安全意識調査の継続 - 指導面における小中統一ルールの拡充 - いじめ、不登校生徒発生率の減少

第6章 安全な学校づくりに向けた今後の取組と展望

1 校内のケガの減少

(1) 現在取り組んでいる予防策を進め、部活動によるケガの発生件数を減らします。

【生徒】 生徒ＩＳＳ委員会による安全点検や健康観察

【教員】 トレーニングメニューの検討や各種講習会、校内研修への積極的な取り組み

(2) 生徒が自ら危険を発見し、回避する能力の育成を図ります。

(3) 外傷データや医療に通院したデータ等の分析と評価を継続的に進めます。

2 いじめの減少

(1) 生徒ＩＳＳ委員会を中心として、いじめ撲滅宣言やスマホのルール作り等、自他を思いやる心や態度を育成するための活動を継続的に推進します。

(2) いじめ・不登校・ネット上のトラブルの発生件数を減らすため、心の教育を一層推進していきます。

(3) 安心・安全な学校づくりの基盤となる特別活動や道德教育、人権教育、ライフスキル教育の授業等の研究を進めます。

(4) 教員の組織力を生かし、全職員で安心・安全な学校づくりを目指します。

3 交通安全に対する意識の向上

(1) 生徒ＩＳＳ委員会を中心に、あいさつ運動やさよなら運動を通じて、安全な登下校に対する意識の向上を図ります。

(2) 生徒ＩＳＳ委員会と保護者や地域の方々が協同した交通安全運動を継続して進めます。

(3) 地域・保護者が一体となって生徒の見守るネットワークを広げます。

4 セーフコミュニティやネットワークの拡充

(1) 秩父市セーフコミュニティとの連携を深め、市内の小中学校へ活動を展開していきます。

(2) 国内のネットワークへの継続的参加やＩＳＳ認証校との交流を積極的に進めます。